

第三章 海軍生徒懲戒則

○海軍省丙第八十七號 海軍 明治十五年  
一般 十月二十七日

海軍生徒懲戒則別冊ノ通相定ム此旨相達候事

海軍生徒懲戒則

第一章 總則

第一條 此懲戒ハ海軍生徒在校舎期限内懈怠過失若クハ不良ノ行狀アル者ヲ懲治ス  
ル爲メニ設クル者トス

第二條 生徒此戒則ヲ犯シタル者アルハ其校長或ハ舎長之ヲ處斷ス

第三條 校長ハ教務總理舎長ハ次官ニ委任シテ輕戒ニ該ル者ヲ處斷セシムルヲ得

第四條 教務總理ハ紀律主任ノ副總理舎長ハ次官ニ委任シテ輕戒ニ該ル者ヲ處斷セシムルヲ得

第五條 重戒ハ左ノ二種ヲ以テス

一重戒 二輕戒

第六條 重戒ハ外出ヲ禁シ朝整列ノ時刻外ニ立タシメ食事ノトキハ別ニ卓末ニ就ケ

他ニ後レテ其座ヲ離レス

第七條 輕戒ハ外出ヲ禁ス

第八條 懲戒中ハ除業ヲ除クノ外課業平常ニ異ナルヲナシ

第九條 重戒ハ五週間以上十週間以下輕戒ハ一週間以上五週間以下トス

第十條 懲戒再犯ノ者ハ其本戒ニ一週ヲ加フ

但重戒十週間ニ過クルヲ得ス其再犯輕戒五週間ニ該ルトキハ重戒五週間ヲ以テ  
之ニ代フ

第十一條 再戒ハ初戒終リタル後チ更ニ之ニ處ス

第十二條 懲戒中三犯以上ニ及フ者モ第十條第十一條ノ例ニ同シ

第十三條 所犯及ヒ之レニ關係アルモノ詮議中ハ外出ヲ停止スルヲアリ



第十四條 醉狂シ或ハ粗暴ノ舉動ニ涉リ理非ヲ辨セサル者ハ一特別室ニ閉鎖シ監守ヲ付シ後チニ處分スヘシ

第十五條 所犯詮議ノ時ニ方リ詐偽ヲ作為シテ已カ非ヲ掩ハントシ或ハ卑劣ノ言行アル者ハ其本戒ニ一週ヲ加フ

但加算ノ儀ハ第十條ニ同シ

第十六條 貳人以上黨與シテ此戒則ヲ犯ス者ハ第十五條ニ同シ

第十七條 他人ヲ懲懲シ犯則ニ到ラシメタル者又ハ他人ノ犯則ヲ補助シタル者ハ本犯ニ同シ

第十八條 二犯以上俱ニ發シタル者ハ一ノ重キニ從テ處ス

第二則ノ款目

第十九條 左ノ件ヲ犯シタル者ハ重戒ニ處ス

一 長上ニ對シ不敬ヲナシタル者

二 喧嘩口論ヲナシタル者

三 粗暴ノ所行ヲ爲シ或ハ醜行ヲ爲シタル者又ハ酩酊シテ事ヲ省セサル者

四 金錢ノ貸借物品ノ購買等ヨリシテ不体裁ノ關係ヲ爲シタル者

五 警吏番兵等其職務ヲ帶フル者ニ對シ戲侮輕弄ノ所爲アリタル者

六 人ヲ欺キ或ハ造言浮語ヲ爲シテ事ヲ誤マラシメタル者

七 允許ヲ得スシテ外出シタル者

八 故意ニ課業或ハ整列ヲ欠キタル者

九 校則或ハ舍則ヲ誹謗シタル者

十 校舎内布達書或ハ揭示書ヲ破裂シ又ハ塗抹シタル者

十一 火ヲ扱フヲ忽カセニシ器物ヲ燒害シタル者

十二 何事ニヨラス情意ヲ述ンカ爲メ長上ニ要接スル者

十三 寢床ヲ共ニスル者



- 十四 允許ヲ得テ外出シ歸期ヲ怠タリ十二時間過キタル時  
第二十條 左ノ件ヲ犯シタル者ハ輕戒ニ處ス
- 一 何事ニ由ラス命ヲ受ケ其執行ヲ怠リタル者
- 二 不注意ヨリシテ官物ヲ遺失毀損シタル者  
但償却ニ止マル者ハ此限ニ在ラス
- 三 校舎内ニ於テ酒類喫飲シ或ハ之ヲ持入レタル者  
但酒類ヲ容レタル証跡アル器物ヲ室内ニ有スル者ハ本文ニ同シ
- 四 室内ニ火藥摺付木其他爆發物ヲ有シタル者
- 五 他見ヲ忌ム書類ト知テ披見シタル者
- 六 酒氣ヲ帶テ歸リ言行常ニ異ナル者
- 七 定所定時ノ外燈火ヲ用フル者
- 八 校舎内ニ於テ碁將棋骨牌雙陸等ヲ玩ヒ或ハ之ヲ有シタル者

- 九 恣ニ飲食シ或ハ定所ノ外ニ於テ喫烟シタル者  
但室内ニ殘包餘燼等飲食喫烟シタルノ痕跡ヲ存スル者ハ本文ニ同シ
- 十 豫科生徒ニシテ喫烟シタルモノ
- 十一 濫ニ他人ノ物品ヲ使用シタル者
- 十二 校舎内ニ於テ出入ヲ制止シタル區域ニ出入シタル者
- 十三 他人ノ修業ヲ妨害シタル者
- 十四 戲謔ヨリシテ他人ヲ困メタル者
- 十五 授業中免許ヲ得スシテ教場ヲ離レタル者
- 十六 疎虞懈怠ニ因テ課業或ハ整列ヲ欠キタル者
- 十七 下附シタル手帳ノ如キ証左トナル書類等ヲ遺失毀損シタル者
- 十八 椅子柱壁等其他官物ニ落書シ或ハ漫ニ之レヲ汚シタル者
- 十九 就寢後他室ニ到リ或ハ室外ヲ徘徊シタル者



○海軍生徒懲戒則

百八十〇

- 二十 長上ニ對シ其定禮ヲ欠キタル者
- 廿一 互ニ金錢或ハ貸與給與ノ諸品ヲ貸借シタル者
- 廿二 他人ヲ誣誣輕侮シタル者
- 廿三 免許ヲクシテ水泳ヲナシタル者
- 廿四 免許ヲ得テ外出シ歸期ヲ怠リ二十分ヲ過タル者
- 第二十一條 左ノ件ヲ犯シタル者ハ一點以上九點以下ノ犯點ヲ付シ積テ十點ニ滿ツルキ一週間ノ輕戒ニ處シ十點ヲ消滅ス若シ剩餘ノ點アルキ尙之ヲ存付ス但六ヶ月間全ク此戒則ヲ犯スコナキモハ曾テ付シタル犯點アリト雖モ之ヲ消滅スル者トス
- 一 何事ニ由ラス命ヲ受ケ神速ニ從事セサル者
- 二 允許ヲ得スシテ貸與ノ兵器其他ノ機械ヲ離解シタル者
- 三 他人ノ修業ヲ支障シタル者

- 四 外食スルコトヲ前以届出サル者
- 五 給與貸與ノ物品紛失若クハ毀損シタルキ速ニ届出サル者
- 六 猥ニ集會シテ雜話ヲナシタル者
- 七 允許ヲ得スシテ外人ヲ校舍或ハ室内ニ誘引シタル者
- 八 就食中談話シ或ハ不体裁ナル者
- 九 家業或ハ整列中談話シ或ハ動止端正ナラサル者
- 十 課業或ハ整列ニ遲參シタル者
- 十一 恣ニ食卓ヲ離レ或ハ食ニ關シテ鄙意ヲ陳シタル者
- 十二 允許ヲ得スシテ書籍器械其他物品ヲ有シタル者
- 十三 演習中允許ヲ得スシテ席ヲ離レ若クハ不体裁ノ所行有ル者
- 十四 室内巡視ノ節不在ノ者
- 十五 每朝室内巡視ノ節室直ニテ不在ノ者

○海軍生徒懲戒則

百八十一



- 十六 校舎ノ屋内ニ於テ濫ニ唾シタル者
- 十七 就寢用意前寢具ヲ取出シタル者
- 十八 允許ヲ得スシテ零靴ヲ用ヒタル者
- 十九 室内ヲ不潔ニシ或ハ物品ヲ錯亂シタル者
- 二十 允許ヲ得スシテ病室ニ到リタル者
- 廿一 就寢後言語シ或ハ他人ノ安眠ヲ妨ケタル者
- 廿二 謳歌吟唱シタル者
- 廿三 猥リニ僵臥シタル者
- 廿四 定時外ニ起臥シタル者
- 廿五 濫リニ教場ニ到リ或ハ人無キ室ニ入り又ハ苟且ニ書籍等ヲ放置シタル者
- 廿六 屋内ニ於テ囂噪シタル者
- 廿七 屋上ニ登リ或ハ窓ニ倚座シ又ハ窓ヨリ出入シ若ハ窓ヨリ塵埃ヲ投棄シタル者

者

- 廿八 屋内ニ於テ猥リニ奔馳シ或ハ口笛ヲ吹キタル者
- 廿九 身体衣服等ヲ不潔ニシ或ハ綻裂シタル衣服帽靴ヲ著シタル者
- 三十 課業整列就食ノ時ハ勿論其他総テ着服端正ナラサル者
- 三十一 妄リニ厨房或ハ常使下小使ノ室ニ到リタル者
- 三十二 允許ヲ得スシテ上衣ヲ脱シタル者
- 三十三 帽ヲ脱シテ室外ヲ通行シタル者
- 三十四 室内ニテ帽ヲ脱セサル者
- 三十五 外出ニテ歸來ノ後チ門鑑ヲ収メサル者
- 三十六 室内ニテ外套ヲ着シタル者
- 三十七 袴ノ裏襷ニ手ヲ挿入タル者
- 三十八 庭園ノ樹木ヲ折傷シタル者



三十九 允許ヲ得テ外出シ二十分以内歸期ヲ遅刻シタル者  
 第二十二條 以上款目ニ掲ケサルコト雖モ課業ノ爲メニ設ケタル規則ヲ犯シ或ハ懲  
 戒スヘキ所爲アル者ハ此戒則ニ比照シテ處ス

第六類 海軍職工

第一章 海軍工夫規則

○海軍省乙第九號府達 明治十六年 九月廿四日(官報抄録)

明治九年甲第二號達造船所定雇職工規則及ヒ明治十一年甲第三號達兵器局定  
 雇職工規則ヲ廢シ従前ノ各職工ヲ海軍工夫ト改メ其規則左ノ通相定候條此旨相違候  
 事

海軍工夫規則

第一條 海軍工夫ハ雇職工中志願ノ者ヨリ選抜シ年期ヲ定メ造船所及ヒ製造所等ニ  
 使役スル者トス

第二條 工夫ニ雇役スル者ハ雇職工服役六ヶ月ヲ歷年齡十五年以上四十年未滿ノ者  
 ニ限ル

但雇繼ノ者ハ本文年齡ノ限ニ在ラス



第三條 工夫志願者ノ年齢ニ因テ年期ヲ定ムルコト左ノ如シ

十五年以上二十年未満ノ者

十ヶ年

二十年以上二十五年未満ノ者

八ヶ年

二十五年以上三十年未満ノ者

七ヶ年

三十年以上四十年未満ノ者

五ヶ年

第四條 工夫志願者ハ丁年以上ノ戸主ニ名ノ身元引受人ヲ立テ第一號書式ノ願書ヲ以テ所轄廳<sup>造船所或ハ製</sup>へ出願ス可シ

第五條 工夫入業ヲ許可スル者ニハ第二號書式ノ辭令書ヲ附與シ第三號書式ノ証書ヲ出サシム可シ

第六條 工夫ノ賃銀ハ其業ノ巧拙ニ因リ就業ノ日一日金壹圓貳拾錢以内ヲ支給ス可シ

第七條 工夫中工業熟達行狀方正且才能アル者ハ工長若クハ工手ニ任スルコトアルヘシ

第八條 工夫年期中ハ時宜ニヨリ海軍部内他ノ製造所へ移轉シ又ハ海軍部外ノ製造所ニ於テ使役スルコトアル可シ

第九條 工夫年期中ハ假令何等ノ事故アルモ解雇ヲ出願スルコトヲ許サス但父兄ノ死亡ニ付遺跡相續等一家ノ安危ニ係ル事故アル者ハ其親族ヨリ事實ヲ詳記シ戸長ノ與書証印ヲ受ケ其所轄地方廳ノ添書ヲ以テ所轄廳へ出願スルルキハ詮議ノ上解雇スルコトアル可シ

第十條 工夫年期中ト雖<sup>レ</sup>傷痍疾病ニ因リ業務ニ堪ヘ難キ者或ハ往々見込ナキ者ハ解雇ヲ命ス可シ

第十一條 工夫就業中過テ負傷スルルキハ官費ヲ以テ治療セシメ且其傷痍重症ニシテ不具或ハ死ニ至ル者ハ官役人夫死傷手當規則ニ據リ處分ス可シ

第十二條 工夫滿期ニ至リ尙三年以上ノ雇繼ヲ願フ者ハ詮議ノ上其年齢ニ因リ期限



○海軍工夫規則

ヲ定メ之ヲ許可ス可シ

但願書ハ第四號証書ハ第五號書式ノ通タル可シ

第十三條 工夫業務勉勵セシ者ニシテ滿期或ハ年期中工長若クハ工手ニ任スルカ或ハ傷疾疾病ノ爲メ解雇スルカ又ハ死亡スルキハ手當トシテ在業滿一ケ年ニ付各自日給額十五日分ヨリ七日分迄ヲ給ス可シ

但在業年數ハ工夫ニ入業ノ月ヨリ雇繼ノ者ハ其月ヨリ起算ス可シ

第十四條 前條ノ手當金ヲ受クル者ニシテ在業滿二十年以上勤續ノ者ハ別ニ相當ノ慰勞金ヲ給ス可シ

第十五條 工夫滿期解雇ノ者ニハ海軍工夫ヲ勤務セシ証トシテ年期中各自勉勵ノ等差ニ從ヒ第六號書式中ノ証書ヲ授與ス可シ

第一號書式用紙半紙ニツ折

海軍工夫入業願書

何府縣何國何郡何町何番地

華士族平民戶主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥附屬寄留ノ者ハ寄留地ノ府縣等ケ此所ニ記ス可シ

姓名

當何年何月何年何ケ月

何年何月何日何國何郡村地ニ於テ生

右ハ海軍工夫志願ニ付何ケ年期ニ御採用被下度受人連名ヲ以テ此段奉願候也

右本人

姓名印

年號月日

何府縣華士族平民

受人若シ本人ノ父兄ナレハ父兄ト肩書スヘシ

何國何郡何町何番地住留

身元引受人 姓名印

同

同 同

造船所或ハ何製造所

○海軍工夫規則



御中

前書之通相違無之仍テ與印候也

何府縣何國何郡町村 戶長

本人現住地ノ戶長

姓名 印

本人ト身元引受人ト郡區町村ヲ異ニシ隨テ戶長モ異ナルハ身元引受人住地或ハ寄留地町村ノ戶長モ與印スルモノトス

第二號書式 用紙 程村紙

五寸

何年何月ヨリ何ヶ年期ヲ以テ海軍工夫入業差許	何府縣 何國何郡何町村何番地 華土族平民 戶主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥
何職	姓名 名
印割	總年期ノ分ハ何ヶ年期ヲ以テノ下ヘ「更ニ」ノニ字ヲ輸入スヘシ

候事

年號月日

印 廳

第三號書式 用紙 半紙ニツ折正副

證書

何府縣何國何郡何町村何番地  
華土族平民戶主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥附籍  
寄留ノ者ハ寄留地ノ府縣等ヲ此所ニ記ス可シ

姓名

當何年何月何年何ヶ月

右ハ海軍工夫當何月ヨリ何ヶ年期ヲ以テ入業ノ儀御許容相成候ニ付テハ總テ御規則堅ク相守リ可申萬一不頁ノ所爲於有之ハ相當ノ御處分相受テ違背不仕候爲後證如件



○海軍工夫規則

百九十二

年號月日

右本人

姓名印

何府縣華士族平民  
何國何郡何村何番地住或ハ寄留

身元引受人 姓名 印

同

同 同

造船所或ハ何製造所

御中

第四號書式 用紙半紙  
ニツ折正副

海軍工夫入業願書

三回以上續年期ノ者ハ「最初何年何月ヨリ何年  
何ケ月マテ何ケ年期満」テ此處ヘ朱書スヘシ四  
四五回以上此文例ニ憑リ「既載スヘシ」

何府縣何國何郡何村何番地  
華士族平民戸主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥附籍  
寄留ノ者ハ寄留地ノ府縣等ヲ此所ニ記ス可シ

姓名

當何年何月何年何ケ月

何年何月何日何國  
何郡何村地ニ於テ生

右ハ海軍工夫何年何月ヨリ何ケ年期ニ御採用被下置候處何年何月ニテ滿期ニ付本  
年何月ヨリ更ニ何ケ年期御採用被下度受人連名ヲ以テ此段奉願候也

右本人

姓名 印

年號月日

何府縣華士族平民  
何國何郡何村何番地住  
或ハ寄留  
身元引受人 姓名 印

同

同 同

造船所或ハ何製造所

御中

○海軍工夫規則

百九十三



前書ノ通相違無之仍テ與印候也

何府縣何國何郡町村戸長

本人現在地ノ戸長

姓名印

本人ト身元引受人ト郡區町村ヲ異ニシ隨テ戸長モ異ナルキハ身元引受人住地或ハ寄留地町村ノ戸長モ與印スルモノトス

第五號書式用紙半紙ニツ折正副

證書

三回以上繼年期ノ者  
前年期ヲ未書スル第  
四號願書ニ同シ

何府縣何國何郡何村何番地

華士族平民戸主或ハ何某男又ハ兄弟伯叔甥附籍  
寄留ノ者ハ寄留地ノ府縣等ヲ此所ニ記ス可シ

姓名

當何年何月何年何ヶ月

右ハ定雇職工何年何月ヨリ何ヶ年期入業御許可被下置候處何年何月ニテ滿期ニ付本年何月ヨリ更ニ何ヶ年期入業御許容被下候ニ付テハ總テ御規則堅ク相守リ可申萬一

不良ノ所爲於有之ハ相當ノ御處分相受違背不仕候爲後證如件

右本人

姓名印

年號月日

何府縣華士族平民  
何郡何郡何町村何番地住或ハ寄留

身元引受人 姓名印

同

同 同

造船所或ハ何製造所

御中



五寸

一等 證

何年何月 何職 姓名

何年何月雇職工入業

何年何月工夫

何年何月雇職

何年何月滿期解雇

右年月拔群勉勵勤績ノ證トシテ之ヲ附與ス

何年何月 印 應

五寸

二等 證

何年何月 何職 姓名

何年何月雇職工入業

何年何月工夫

何年何月雇職

何年何月滿期解雇

右年月誠實勉勵勤績ノ證トシテ之ヲ附與ス

何年何月 印 應

五寸

三等 證

何年何月 何職 姓名

何年何月雇職工入業

何年何月工夫

何年何月雇職

何年何月滿期解雇

右年月勤績候ノ證トシテ之ヲ附與ス

何年何月 印 應



○海軍工夫規則

第二章 海業者ノ男子届出方

○海軍省乙第壹號沿海府縣達明治十七年一月廿五日

海業者及ノ男子満十七歳ヨリ満四十歳迄ノ人口毎年一月調ヲ以テ其年三月十五日限可届出此旨相達候事

但本年限リ六月十五日限無遅延可届出事

○海軍省乙第九號沿海府縣達同十七年七月卅一日

本年一乙第壹號ヲ以テ相達候海業者口數届出方來ル十八年ヨリ左ノ表式ヲ用フベシ此旨相達候事

海業男子口數表

年月日調査

府縣名

國名	郡區名	業別	十七	十八	十九	二十	廿一	廿六	三十一	三十一	合計	前年比較
			歳	歳	歳	歳	以上	以上	以上			
		舟乘										
		漁業										
		合計										
		通計										

○海軍省報告明治十七年(官報抄録)

本年一月海軍省乙第壹號達ニ依リ取調ヘタル沿海府縣海業男子ノ口數ハ左表ノ如シ

沿海府縣海業男子口數表

第	軍管	府縣名	自				合計	通計
			至	至	至	至		
一	茨城縣	一一五三	二八四八	二四七四	六四七五			
	千葉縣				二六五四六			

○海業者ノ男子届方



○海業者ノ男子屈方

軍管		第三軍管			第四軍管		
東京府	神奈川縣	靜岡縣	愛知縣	三重縣	富山縣	石川縣	福井縣
一九九七	一〇〇一	二〇八四	一六六三				八二四
四五六五	二二六四	五六二四	四四五七				三六六
三七〇五	二二九〇	五二一六	四七三六				八四一
一〇二六七	五六五五	一二九三四	一〇八五六				七九九
二九六四							一九八四
五一九〇七							四九一四
							二〇〇六
							一一〇三九
							七〇七
							一五三八
							一六七五
							三九二〇
							六〇九八〇

二百〇〇

軍管		第五軍管				
京都府	兵庫縣	鳥取縣	岡山縣	廣嶋縣	島根縣	山口縣
二四八一	七九八	五三一	三四六六	一五七一		
五九六〇	二〇六二	一一五七	七二三九	三六〇四		
五七〇一	一八三四	九八六	六二七九	三六三六		
一四一四二	四六九四	二六七四	一六九八四	八八一		
五〇〇三				一四二五七		
				七三九八		
				二七八五六		
				二二七七八		
				二二二三四		
				一一〇〇七		
				二二五五九		
				一一七七六		
				五〇七三		
				九二五		
				二五五五		
				五八五六		
				五六九二		
				一四一〇三		
				八三六九八		
				四三五五三		

○海業者ノ男子屈方

二百〇一







○海業者ノ男子届方

ヲ以テ分界ヲ立テ可然哉

第三條 人口届ハ每一人本人姓名ノ右傍ニ戸主名即チ祖父母、父母、兄弟、伯叔甥  
ヲ掲ケテ而シテ住所、誕生、族職業ヲ左記シ事故アル者ハ備考トナシ摘要ヲ可記載  
或ハ毎部ノ人員ヲ小計シ全轄ノ合計表ヲ製シ陸軍兵籍ニ在ル者ハ欄外ニ一畫ヲ  
設ケ兵種ニ拘ラス每郡ノ小計ヲ爲シ而シテ合計人員ヲ掲ケ可然哉

第四條 滿拾七歳ヨリ四拾歳迄ノ者ハ國民軍編入ノ者アリ或ハ後備豫備又ハ第一  
豫備第二豫備徵員ノ如キモノモ各其兵種ヲ別テ可然哉

○海軍省指令 明治十七年  
二月廿五日

伺之趣左ノ通可相心得事

第一條第二條 伺ノ通

第三條 本人姓名其他記載ヲ要セス又現ニ兵役ニ在ル者ハ計上スルニ不及事  
第四條 各兵種類區分ニ不及事

第一款 海員ノ業ニ従事スル者届方

○海軍省乙第拾號 海府 明治十七年  
八月六日

明治十六年<sup>十一月</sup>乙第拾三號達 會テ海軍服役ノ者ニシテ現今各管下人民所有ノ船舶ニ乘居ル者有之候  
ハ其本籍姓名取調早々當省へ可届出此旨相達候事○但自今乘組マ者ハ  
三月月經<sup>ニ取調</sup>本文同様可届出事相廢ス此旨相達候事

○農商務省第廿六號 海府 同 十七年  
七月廿六日

自今各浦役場ニ於テ海員雇入雇止事務取扱ノ際新タニ海員トナリ又ハ海員ノ業ヲ廢  
スル者及ヒ死亡者ノ族籍氏名年齢住所并從前海軍兵役ノ有無取調毎年三月三十一日  
限リ海軍省へ届出スヘシ  
右相達候事

○海軍省乙第拾壹號 海府 同 十七年  
八月六日

本年農商務省第二拾六號達以前ニ浦役場ニ於テ公認ヲ與ヘタル者ニシテ現ニ海員ノ  
業ニ従事スル者ノ族籍姓名年齢住所并從前海軍兵役ノ有無取調此際届出ヘシ此旨

○海員ノ業ニ従事スル者届方



○海員ノ業ニ從事スル者届方

二百〇六

相達候事

甲編追纂

第一編 陸軍省之部

第一類 陸軍恩給令

(改正) ○太政官第三拾七號官省院 陸軍府 陸軍省達明治十七年 四月廿五日

明治十六年九月第三十七號達(甲編四丁) 陸軍恩給令中左ノ通更正候條此旨相達候事

第三條中 「會計卒看病卒樂生」ノ八字ヲ刪リ「憲兵卒」ノ下「雜卒諸工」ノ四字ヲ加フ

第十六條中 「監軍部長」ノ上「檢閱」ノ二字ヲ加フ

第五十一條中 「若クハ扶助料」ノ六字ヲ刪ル

乙號表面中 「卒」ノ上ニ「諸」ノ一字ヲ加フ

丁號表面中 「死亡」ノ下ニ「者」ノ一字ヲ加フ

(改正) ○太政官第六拾號官省院 陸軍府 陸軍省達明治十七年 六月十八日

明治十六年九月第三十七號達陸軍恩給令中左ノ通更正候條此旨相達候事

○陸軍恩給令

二百〇七



○陸軍恩給令

第十六條中「荷ホ檢閲監軍部長ノ審査ヲ經テ之ヲ陸軍卿ニ移ス」ヲ「所管長官ヨリ之ヲ陸軍卿ニ呈ス」ニ更ム

第四十三條中「檢閲監軍部長ヲ經テ」ノ九字ヲ刪ル

(追加)

○太政官第四號官省院 同 十八年 陸府縣達 一月廿七日

明治十六年九月第三十七號達陸軍恩給令中左ノ通追加候條此旨相達候事

第十條一項中疾病ノ上ニ「傷痍ヲ受ケ若クハ」ノ八字ヲ加フ

同條二項中「傷痍」ノ下ニ若クハ「疾病」ノ五字ヲ加フ

第十一條中「疾病」ノ上ニ「傷痍若クハ」ノ五字ヲ加フ

第一章 陸軍恩給令附則

○太政官第四十號官省院 明治十八年 陸府縣達 七月十八日

陸軍恩給令附則左ノ通相定候條此旨相達候事

陸軍恩給令附則

第一條 屯田兵ノ恩給ハ左ノ各條ニ據ルヘシ

第二條 屯田兵上長官士官ノ恩給並ニ其寡婦孤兒等ノ扶助料ハ凡テ本令ニ據リ支給ス

第三條 屯田兵下士ノ内北海道ニ移住ノ節定規ノ給助ヲ受ケサル者ニアリテハ總テ本令ニ據リ各種ノ恩給ヲ支給ス

第四條 屯田兵下士卒ニシテ定規ノ給助ヲ受クル者ニアリテハ服役年ノ爲メニ恩給ヲ受クルノ權ナシト雖モ戰鬥或ハ戰時平時ニ拘ハラス軍隊勤務中公務ノ爲メ死歿又ハ傷痍疾病ヲ受ケ職務ニ堪サルニ至リ其證據明亮ニシテ免官免役スル者ハ凡テ

○陸軍恩給令附則



本令ニ據リ各種ノ恩給ヲ支給ス

但免除恩給ハ服役年數ニ關セス十一年ニ等シキ額ヲ給ス

第五條 北海道ニ移住ノ節定規ノ給助ヲ受ケサル者ノ服役年計算ハ本令ニ據ル可シ

ト雖モ給助ヲ受ケシ下士卒ヨリ出身ノ士官ハ士官ニ就任ノ日ヨリ起算ス可シ

第六條 屯田兵上長官、士官、下士ノ現役ヲ辭シテ恩給ヲ受クルノ例ハ本令第三條憲

兵ノ年齢ニ準ス

第二章 陸軍恩給令ニ係ル追達

○太政官第四號官省院 明治十七年 陸府卿達 一月四日

(編者曰海軍恩給令ノ部ニ出ス故ニ茲ニ略ス)

(廢止) ○太政官第十五號官省院 同十七年 陸府卿達 二月五日

明治十三年四月第二十六號達(明治九年十月第九號達陸軍恩給令第七十六條恩給計算書ノ擴大) 廢止

候條此旨相達候事

○陸軍省達甲第貳拾壹號同十七年 陸府卿達 五月十日

明治八年太政官第四拾八號達陸軍武官傷痍扶助概則ニ據リ扶助料拜受ノ者現行陸軍恩給令第六條第八條及第二十八條ニ掲載ノ事故アル時ハ總テ其各條ニ準シ處分スヘキ儀ト可相心得此旨相達候事

○陸軍省甲第三十八號同十七年 陸府卿達 八月廿六日

別紙之通太政官ヨリ御達相成候條爲心得此旨相達候事

○陸軍恩給令ニ係ル追達



○陸軍恩給令ニ係ル追達

別紙

陸軍省

舊陸軍恩給令ニ據リ恩給或ハ扶助料ヲ給與シタル者改正恩給令發布後ニ於テ其權利  
 移轉若クハ停止及其他ノ事故生セシ時ハ總テ改正令ニ據リ處分スヘシ此旨相達候事

○大藏省第八十號明治十七年  
十一月十三日

軍人恩給整理科目十七年度以降別表ノ通改正ス  
 右相達候事

大科目	中科目	小科目	細科目
軍人恩給	○	陸軍恩給	退職給 <small>服役停止恩給 傷疾疾病恩給 傷疾疾病增加恩給</small>
			免除給 <small>細節前項ニ同シ</small>

陸軍扶助料	舊傷疾疾病恩給		
寡婦扶助料			
孤兒扶助料			
父母扶助料	寡婦扶助料 孤兒扶助料 父母祖父母姉妹扶助料		
海軍退隱料及恩給			
退職給	服役停止恩給 傷疾疾病恩給 傷疾疾病增加恩給		
退役給	細節前項ニ同シ		
舊傷疾疾病退隱料			
舊帶傷扶助料			
海軍扶助料			

○陸軍恩給令ニ係ル追達







受クル者ノ儀ト可相心得事

○太政官第九號官省院達同 十八年 陸海縣達 二月十三日

明治八年<sup>四</sup>月第四拾八號達陸軍武官傷瘻扶助及ヒ死亡ノ者祭葬并其家族扶助概則及同年八月第四拾八號達海軍退隱令ニ據リ給與シタル扶助料及退隱料ハ自今毎年一月四月、七月、十月、ニ前三ヶ月分ノ金額ヲ交付候様可取計此旨相達候事

但年額ヲ四分シテ端數ヲ生スル時ハ四捨五入法ニ據リ厘位ニ止ムヘシ

○陸軍省甲第廿四號官省院達同 十八年 陸海縣達 五月廿一日

客年十二月廿日當省達甲第五拾貳號達但書左之通改正候條此旨相達候事

(編者曰改正ノ原ハ本号達ニ修正ヲ加ヘタルハ茲ニハ省略ス)

○太政官第廿七號官省院達同 十八年 陸海縣達 六月十一日

各廳ニ於テ左ノ各項ニ該ル者アル時ハ其旨恩給局ニ通牒スヘシ此旨相達候事  
一 恩給ヲ受ル者ヲ准官吏以上ニ採用シ又ハ之ヲ差免シタル時

一 扶助料ヲ受ル者ヲ歳出科目表俸給ノ部ヨリ俸給ヲ支給スヘキ者ニ採用シ又ハ之ヲ差免シタル時

一 明治八年<sup>四</sup>月第四拾八號達陸軍武官傷瘻扶助死亡ノ者祭葬家族扶助概則及同年八月第

百四拾八號達海軍退隱令ニ據リ扶助料若クハ退隱料ヲ受ル者前二項ニ該ル時

一 官吏恩給令ニ據リ扶助料ヲ受クル者ヲ官立學校ニ於テ官習生徒ニ命シ又ハ之ヲ差

免シタル時

○司法省丁第壹號大審院 同十八年 裁判所達 一月六日

自今官吏及ヒ陸海軍恩給令ニ據リ恩給ヲ有スル者罪ヲ犯シ公權剝奪若クハ停止ノ處分ヲ爲シ又ハ扶助料ヲ受ル者罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル時ハ直ニ其宣告文寫書ヲ添ヘ當省ヘ可届出此旨相達候事

但本文中明治十六年當省丁第廿五號(甲編廿六 丁ニ出ツ)達ニ據テ可届出事件ニ係ル時ハ其旨

ヲ明記シ宣告文寫書ハ貳通可差出儀ト心得ヘシ (此但書ハ十八年二月司法省丁第六號達ニヨリ消滅ス)



○陸軍恩給令ニ係ル追達

(廢停)

○司法省丁第六號大審院同 十八年  
裁判所達 二月廿一日

明治十六年<sup>九</sup>當省丁第貳拾五號達(甲編二十  
六丁ニ出)自今廢止候條此旨相達候事

但該達廢止ニ付テハ本年<sup>一</sup>當省丁第壹號達中但書(前ニ  
出ス)ハ消滅セシ儀ト心得ヘシ

○陸軍省伺明治十八年  
一月十日

陸軍恩給令第七條ニ掲クル文官トハ准官吏タルト否トテ問ハス總テ官廳ノ俸給ヲ受クル者ノ旨先般御指令相成候然ルニ給仕小使等ノ如キハ雇給ノ名義ヲ以テ支給セラル、者ニ付令第七條ノ文官中ニ包含セサル儀ト相心得可然哉又俸給ノ名義ヲ以テ支給スル者ト雖モ日給雇員ノ如キハ其去就一定セス假令ハ今日出勤スルモ明日事故ケサル者ノアリテ缺勤スルモ其俸給ヲ受ケサル者ノ如キチ云フ若シ此等ノ者モ其俸給ヲ受クル間ハ恩給ヲ止ムルトスルモハ日々異動ヲ生シ實際難被行場合モ可有之ニ付是亦前顯文官中ニ包含セサル儀ト相心得可然哉

○大政官指令明治十八年  
五月十一日

伺之派十七年四月五日指令ニ及ヒタル儀モ候處更ニ左ノ通可相心得事

陸軍恩給令第七條ニ掲クル文官トハ准官吏以上ノ者ヲ云フ

同令第二十七條ニ掲クル俸給トハ歳出科目表中俸給ノ部ヨリ支出スルモノヲ云フ

○海軍恩給令ニ係ル追達



### 第二類 勳章年金

#### 第一章 年金渡方手續概則

○大藏省第壹號附明治十八年  
縣達一月廿六日

年金渡方手續概則第九款左ノ通更正相成候條此旨相心得年金拜受者へ無遺漏達方取計フヘシ

#### 年金渡方手續概則

第九款(甲編三十)勳等年金拜受ノ者其年金授受ノ順序ハ左ノ如シ

- 一 受賞人ノ請願ニ依リ其本管廳又ハ寄留ノ地方廳ニ於テ渡方取計フヘシ因テ金票拜受ノ際金額ノ受取場所ヲ賞勳局へ申立賞勳局ハ之レヲ大藏省へ通牒スヘシ

- 二 年金受取場所ノ轉換ヲ要スルキハ其旨賞勳局へ願出且從前ノ地方廳へモ届出ヘシ此場合ニ於テ受取期月ノ前々月盡日迄ニ願書接到ノ分ハ其期ヨリトシ右

ノ期限ヲ經過セシモノハ次期ヨリ轉換ヲ爲サシム而シテ賞勳局ハ之レヲ大藏省ニ通牒スヘシ

- 三 年金受取場所轉換ハ前項ノ手續ニ據ルト雖モ若シ其期節ニ臨ミ止ヲ得ス至急ヲ要スルコアルキハ乙廳ニ於テ受取度旨ヲ本人ヨリ甲廳へ稟請シ甲廳ハ已ニ國債局ヨリ受取タル金額ヲ直ニ乙廳へ回送シ其旨速ニ賞勳局及大藏省へ届出ヘシ但此手續ヲ經タルモノハ次期ノ前々月盡日迄ニ更ニ前項ノ願出ヲ爲スヘキモノトス

太政官賞勳局

大藏省

明治十八年一月

○大藏省第六十九號府縣(沖繩)同十七年  
縣ヲ除ク十月六日

賞勳年金官吏恩給軍人恩給及一時賜金ノ儀十七年度相當ノ分ヨリ當省國債局ヨリ交付候條其決算帳ノ儀ハ當省ヲ經由シテ會計検査院へ差出候儀ト心得ヘシ

○年金渡方手續概則



右相達候事

第二章 勳章年金褫奪及停止取扱手續

○司法省丁第一號 大審院 明治十七年  
裁判所 一月十二日

勳章年金褫奪及停止取扱手續ノ儀ニ付大政官ヨリ左ノ通被達候條此旨相達候事

司 法 省

別紙陸軍省伺勳章年金褫奪及停止取扱手續ノ儀朱書ノ通及指令候條此旨相達候事

明治十六年十二月廿八日

太政大臣 三 條 實 美

(別紙)

勳章年金褫奪及停止取扱手續之儀ニ付伺

先般勳章年金褫奪及停止取扱手續御達相成候處其以前即チ本年第二十二號御布告  
後第三十九號御達迄ノ間ニ於テ右ニ適該スル者アルモ勿論手續ニ準據ス可カラサ  
ル儀ト相心得可然哉ノ旨伺出候處右ハ本年第二十二號布告發布後ハ第三十九號達  
ニ據リ處分スル儀ト相心得旨御指令ノ趣敬承仕候然ルニ該手續第二條ニ據レハ

○勳章年金褫奪及停止取扱手續



勳章年金額奪取扱手續

二百二十四

勳章褫奪シタル後處刑言渡ヲ爲スモノト有之候處右第二十二號御布告後第三十九號御達迄ノ間ニ於テ已ニ輕重禁錮ノ處分ヲ受ケ又ハ己ニ其刑滿期後之者ト有之右等ハ如何ノ手續キナ以テ褫奪方取扱可然哉至急何分ノ御指揮相成度此段更ニ相伺候也

明治十六年十一月十五日

陸軍卿 大山 巖

太政大臣 三條 實美 殿

(朱書)

伺之趣本年第二十二號布告後第三十九號發表以前ニ有テ既ニ刑ノ言渡ヲナシ未タ勳章褫奪ノ手續ヲナサ、ルモノハ該達第三條ノ手續ニヨリ更ニ其罪狀及刑名ヲ賞勳局總裁へ具申スヘキ儀ト可心得事

明治十六年十二月廿八日

○福井縣伺 明治十六年十一月十五日

本年九月太政官第三十九號達勳章金額奪及停止取扱手續第一條第二項ニ所謂懲戒

例トハ汎ク指稱セシモノニシテ單ニ官吏懲戒例ニ限ラス明治九年八月御省達乙第九十貳號巡查懲罰例ノ如キモ無論該項ニ包含シタルモノニ有之候哉聊カ疑義ヲ生シ候ニ付爲念相伺候也

○內務省指令 明治十七年二月四日

伺之通



第三類 陸軍武官婚姻法

第一章 陸軍武官結婚條例

○東京府伺 明治十七年三月十九日

陸軍々人結婚之儀ハ該條例ニ據リ許可ヲ不得ハ舉行難相成等ノ處茲ニ尋常結婚ノ例ニ依リ妻ノ送籍ヲナスモノアリ各區役所戸長役場ニ於テハ其配偶者ノ軍人タルト否トヲ知ルニ由ナク既ニ送籍ヲナシ後チ軍人タルヲ以テ該條例ニ依リ身元證書ヲ請フ者有之然ルニ軍人ハ將官及同等官ニ在テハ陸軍卿ノ許可ヲ請ク下士以下ニ在テハ所管長官ノ許可ヲ請クサレハ結婚不相成儀ニ付當初軍人タルヲ告クス夫妻ノ送入籍ヲ申出タルハ索ヨリ順序ニ違フタルモノニ付其結婚送入籍ハ無効ノモノトシ更ニ允許ヲ乞ハシメ可然哉

○陸軍省指令 明治十七年四月十日

伺之趣陸軍々人タル者武官結婚條例ニ依ラスシテ結婚スヘキ筋無之萬一有之ニ於テ

ハ其結婚無効ニ屬スルハ勿論之儀ト可相心得候事

但本文之如キ者有之候ヘハ官姓名取調可申出候事

第二章 陸軍武官結婚家計保護金取扱規則

○陸軍省乙第廿七號達 明治十五年四月廿九日

編者曰此達ハ甲類四十六丁ニ出ス然ルニ左ノ受領証書々式ヲ脱漏セシテ以テ今茲ニ拾録シテ甲編ノ欠ヲ補フ

○陸軍武官結婚家計保護金取扱規則



○家計保護金取扱規則

二百二十八

第二條 受領證書々式

○□ノ印及ヒ( )ヲ施スモノハ朱

會 計 局 印	(第 號) 証 (納人) 官 姓 名	(花) (計 算 課 長) 金 (印) (課 係) 紋 (公 債 証 書) (類 西 高) (圓 印)	(公債証書ハ其種類記號) (番號ヲ記スヘシ) 右家計保護金トシテ正 ニ預リ置候也 陸軍省會計局計算課長 明治 年 月 日 官姓名印
------------------	--------------------------	---	--

(廢止)

○陸軍省達甲第廿壹號 同十八年 五月五日

明治十五年 五月 當省達甲第拾壹號 (甲編四十) 達自今廢止候條此旨相達候事

○家計保護金取扱規則

二百二十九



○徵兵令 總則

第四類 徵兵令

第一章 總則

(編者曰茲ニ裁スル向指令ハ徵兵事務向  
指令第一號ヨリ第八號ニ掲載スルモ  
ノチ一トシテ准スルナク分載セリ)

○埼玉縣伺 明治十七年  
一月十二日

徵兵令改正ニ付客年<sup>十二</sup>御省甲第四拾四號御達ノ趣モ有之候處昨拾六年適齡則チ  
本年ニ於テ徵集スヘキ者ノ中家事ノ都合ニヨリ免役料上納國民軍ノ外免役出願致  
度旨申出候者有之右ハ新令御發令後ニカ、ルト雖旧令ニヨリ徵集セラルヘキ者  
ナレハ舊令第六拾五條ノ手續ヲ以テ出願致候ハ、御採用可相成哉

○陸軍省指令 一月十  
九日

伺之通

○大坂府伺 同十七年一月  
十四日(電報)

今般改正徵兵令施行期日ノ分界ハ發令ノ日ヲ以テスルカ十六年十七號布告施行期  
限ニ據ルカ且本令ハ客年御省甲第四拾四號及ヒ本年甲第二號達シ條項ノ外ハ凡テ

十七年徵兵ヨリ施行スヘキ哉

○陸軍省指令 一月廿一  
日(電報)

本月十四日電報伺改正徵兵令施行期日ノ分界ハ十六年拾七號布告施行期限<sup>(各地到達  
ノ日ヨリ)</sup>  
七日ヲ以テ施<sup>(七  
日ヲ以テ施)</sup>ニ據ルヘシ其他伺之通  
行期限トス

○滋賀縣伺 同十七年八  
月十一日

徵兵令第七條及第二拾二條ノ諸川中重罪ノ刑ニ處セラレ云々トアル重罪トハ刑法  
第六拾七條及同第六拾八條ノ刑ニ處セラレタルモノヲ併稱スルハ無論ニ有之候處  
新法實施以前ニ該ル犯罪ニ於テハ舊法ニ據リ禁獄懲役共ニ刑期五年以上ノ刑ニ處  
セラレタルモノヨリ重罪トシ從テ徵否ノ區分相立可然哉

○陸軍省指令 九月  
五日

伺之概明治十四年第八拾一號布告新舊比較ニ據リ重罪ノ刑ニ當ル者ヲ重罪トシ可取  
調事

○徵兵令 總則



○岡山縣伺 同 十七年 八月十三日

第拾項 府縣ノ管地兩師管ニ跨ルモノハ每師管ニ一ノ徵兵署ヲ設ク可キ成規ニ有之當縣ノ如キハ第八第九ノ兩師管ニ跨リ候處同所ノ事務又ハ檢査所兵事課長等巡行一名ヲ以テ該事務ニ從事候儀差支有之ハ判然候ニ付於此場合ハ兵事課副長ヲ置キ事務ニ參與セシム可キ哉將々兵事課員官ヲシテ課長ノ代理ヲ爲サシムルモ不苦候哉

○陸軍省指令 九月三日

第拾項 後段伺之通

○山梨縣伺 同 十七年 十一月十一日

前年徵兵適齡ノ節逃亡ノ事故ニテ翌年廻先入兵トナリタル者犯罪ノ爲メ地方重罪裁判所ニ於テ有期徒刑ノ欠席裁判ヲ宣告セラレタリ右ハ令第七條ニ據リ除役ニ屬セシムヘキモノ、如クニ候得共本人捕獲ノ上糾問伏罪セルニ非ラサレハ刑ノ確定

セシモノト難認ニ付猶先入兵不參名簿ニ据置可然哉

○陸軍省指令 十二月四日

伺之通

但刑ノ期滿免除ヲ得タル片ハ除役ニ屬スヘシ

第二章 服役

○陸軍省達甲第廿三號 府縣(沖編札幌根達同 十八年 室ノ三縣ヲ除ク) 五月十三日

明治十六年徵集現役兵ノ内徵兵令第拾二條ニ據リ殊ニ技藝ニ熟シ行狀方正ノ者ヲ選ヒ步兵騎兵工兵ハ一中隊ニ三人砲兵ハ一中隊ニ二人輜重兵ハ一小隊ニ二人ノ割ヲ以テ歸休セシメ候條爲心得此旨相違候事

○橡木縣伺 明治十七年 二月五日

本年徵收適齡者除役免役及猶豫其他等總テ舊令ニ依リ取扱候儀ハ茲ニ御指令ノ趣モ有之領承候得共新令第拾條ノ如キハ本年徵收ノ際若シ志願者於有之ハ御採用相

○徵兵令 服役



成候儀ト心得可然哉

○陸軍省指令 二月十五日

伺之通

○廣嶋縣伺 同 十七年 八月十六日

第二拾一條 徵兵令第拾條ノ志願兵ハ兵種ヲ撰ムコトヲ得サル儀ニ候哉

第二拾二條 現役兵身上異動アル場合ニ於テハ其届方如何スヘキヤ

○陸軍省指令 九月六日

第廿一條 兵種ヲ撰フモ妨ケナシ

第廿二條 親族ノ者ヨリ本人ヘ通牒シ本人ヨリ所屬ノ下士ニ届出ヘキモノトス

○神奈川縣伺 同 十七年 九月十七日

徵兵令第拾條滿拾七歳以上ニシテ現役志願者ハ後備役トモ繰上可相成旨本年二月

榎木縣伺ヘ御指令有之就テハ同條例第百二拾二條ノ滿二拾七歳以下現役志願者ニ

シテ現役ヲ終リ豫備役又ハ後備役服役中國民兵役ニ編入セラルヘキ年滿三拾二歳ニ達スルト雖モ願次服役年期繰下相成候哉第一項

○陸軍省指令 十月二日

第一項 伺之通

○名古屋鎮臺伺 同 十七年 十二月廿六日

徵兵令第十一條ノ志願兵入營後若干月ニシテ事務條例第八十五條但書ニ相當スル者ハ同例第八十六條及第八十七條ニ據リ御詮議可相成儀ニ有之然レハ其事故タル本人自家ノ異動ニ係ルト雖モ之ヲ正條適當ノモノナリトシテ歸休等ノ御詮議アリ命シテ退營セシムル以上ハ其殘金返納ノ儀モ亦同例第百五條第二項ノ例ニ據リ取扱候テ可然哉

○陸軍省指令 十八年 一月十一日

伺之趣徵兵令第十一條第二項ニ據リ歸休ヲ命スル者ヲ除ク之外殘額返付セサル儀ト

○徵兵令 服役



可心得事

第三章 免除及猶豫

●第十六條 兵役ヲ免除スルハ癆疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘザル者ニ限ル

●第十七條 左ニ掲クル者ハ徵集ヲ猶豫ス但其年補充員不足スル時又ハ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スル時ハ之ヲ徵集ス

○大分縣伺 明治十七年二月一日(電報)

明治十一年以後徵兵ニシテ徵兵令改正即チ十六年十二月二十八日以後本令第十七條乃至第十九條揭示ノ名稱ヲ止メタル者ハ更ニ徵集可然哉

○陸軍省指令 二月九日(電報)

本月一日電報伺右ハ舊令ニ據リ免役又ハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ同令三十二條乃至三十五條ニ由リ處分スヘシ

○滋賀縣伺 同十七年二月廿一日

癆疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ嗣子承祖ノ孫若シクハ相續人 徵兵年齢前チ罷メ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫ハ徵集猶豫ニ屬セサル儀ニ有之候處其更定ノ嗣子承祖ノ孫癆疾不具等ニ罹リ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタル故チ以テ離縁若クハ廢嫡シ又ハ死亡等ニテ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫ト雖モ徵集猶豫ニ屬セサル儀ト相心得可然哉

○陸軍省指令 三月十三日

伺之趣徵集猶豫ニ屬スル儀ト可心得事

○大分縣伺 同十七年八月廿九日

第二條 徵兵年齢前兵役ヲ志願スルニ本令第十六條ニ相當シ検査ノ格ニ合セサルモノ 定尺未滿ノモノヲ除クハ徵兵年齢ニ至リ再ヒ検査ヲ要セサル哉

○徵兵令 免除及猶豫



○徵兵令 免除及猶豫

○陸軍省指令 十月十四日

第三條 再検査ヲ要スヘキモノトス

第十七條 第三項 兄弟同時ニ徵集ニ應スル者ノ内一人及ヒ現役兵ノ兄或ハ弟一人

○滋賀縣伺 同十七年(電報) 五月十日

憲兵現役中ノ兄弟モ徵兵令第十七條第一項ニ據リ處分シ可然哉

○陸軍省指令 五月十四日(電報)

憲兵現役中ノ兄弟處分伺ノ儀伺之通

○富山縣伺 同十七年 七月八日

現役兵ノ兄弟一人ハ徵兵令第十七條一項ニ據リ猶豫相成候處前年徵兵ニテ再役志願ノ上服役者ノ弟及ヒ志願ニテ現役者ノ弟等徵兵相當ノ節ハ現役兄志願ト否トヲ撰ハス令第十七條一項ニ據リ猶豫可相成哉

○陸軍省指令 七月二日 十三日

伺之通

○東京鎮臺伺 同十八年 八月四日

徵兵令第十七條第一項兄弟同時徵集ニ應スル者ハ内一名ヲ猶豫スト有之徵兵事務條例第二百二十六條ニ其兄弟ハ情願ニ據リ一名ヲ猶豫スト有之右ハ各自届出ノ節ニ於テ本來一名ハ猶豫スヘキ者ト定メ得ル者ニ付父兄情願セサレハ兄ヲ徵集シ弟ヲ猶豫スヘキ儀ニ候哉又ハ弟ヲ徵集セシメ兄ヲシテ猶豫セラレノヲ欲スル時ハ其父兄ノ情願ニ依テ處分スヘキ儀ニ候哉又ハ情願ニ非サレハ兄弟共ニ徵集スルノ趣意ト心得可然哉

○陸軍省指令 八月十日

伺之趣身体検査ノ上兄弟共ニ合格スルトキハ情願ニ由リ必ス一人ハ徵集ヲ猶豫スヘシ若シ情願セサルキハ兄ヲ徵集シ弟ヲ猶豫スヘキ儀ト心得事

○宮城縣伺 同十七年 八月八日

○徵兵令 免除及猶豫



第一條 徵兵令第十七條第一項第二項ノ兄弟ハ同令第十條第十一條ノ現役志願者ノ兄弟モ含蓄セシ儀ニ可有之哉

○陸軍省指令八月廿八日

第一條 伺之通

○岐阜縣伺同 十七年 十月三十日

第一條 去ル十四年徵兵満齡之節戸主ノ廉ヲ以テ國民軍之外免役相成全年十一月  
中戸主ヲ罷メ徵集ノ身分トナリ其届出ヲ怠リ本年九月十五日前届出候者有之右  
ハ來ル十八年先入兵ニ徵集可相成處同人弟ナルモノ本年徵兵相當ニテ現今歩兵  
第七聯隊へ入營罷在候就テハ前頭ノ如ク先入兵ト雖モ本令第十七條第一項末段  
ニ依リ徵集猶豫ニ屬スル儀ト心得可然哉

第二條 前條ノ者徵集猶豫ニ屬スト雖モ兄弟同時先入兵トシテ徵集ニ當リ共ニ合  
格スルモノ、如キハ無論徵集猶豫ニ屬セサル儀ト心得可然哉

○陸軍省指令十一月十二日(電報)

令第十七條一項ニ當ル者先入兵ナルモノ扱ハ二ヶ條トモ猶豫ニ屬セサル儀ト心得ヘ

○秋田縣伺同 十七年 十二月十二日

今茲ニ次三男ヲ有スル戸主アリ其次男先年他家ノ養子トナリ三男本年徵兵満齡者  
ニシテ徵集可相成者ニ候處次男某ナルモノ養子ニ既ニ養家ニ於テ去ル十六年徵兵  
相當者ニテ目下現役中ニ候處今般離縁復籍セルヲ以テ自然徵兵令第十七條第一項  
ニ依リ兄弟ノ内一人ハ徵集猶豫ニ屬スルニ似タリト雖モ該次男ノ服役セルハ素是  
同籍ヨリ服役セルモノニ非サルヲ以テ猶豫ニ屬セサル義ニ候哉

○陸軍省指令十二月廿七日

伺之般徵兵令第十七條第一項ニ據リ猶豫ニ屬スル義ト心得事

○岡山縣伺同 十七年 十二月廿六日

○徵兵令 免除及猶豫



第二條 徵兵令第十七條第一項ニ據リ徵集猶豫トナリタル者ハ同事務條例第三書式異動届ニ兄某現役中云々ノ文例有之候得共其現役者タル兄等該役満期相成候モ七ヶ年ノ検査時限中同戸籍ニアルキハ猶豫ノ資格ヲ失ヒタル者ニハ無之ト心得可然哉

○陸軍省指令十八年一月十五日(電報)

第二條 現役者満期トナル時ハ同籍ニ在ルモ猶豫ノ資格ヲ失ヒタルモノトス

○大阪府伺同十七年十一月十三日(電報)

長男嗣子ノ麻ニテ猶豫セラレ次男現役中三男適齡ナル時ハ猶豫ニ属スル哉

○陸軍省指令十一月十九日(電報)

伺之通

○岐阜縣伺同十七年十一月十四日(電報)

届出意先入兵ト成タル者モ弟入營中ナルキハ猶豫ニ属スルヤ客月三十一日ノ伺ニ

先入兵ナルキハ猶豫ニ属セスト十二日御指令アリ右弟入營中死没スルモ猶豫ナラサルヤ

(指令)十一月二十日(電報) 伺之通

○鳥取縣伺同十七年十二月廿日

第三條 兄弟同時徵集ニ當リ徵兵令第十七條第一項ニ依リ弟ヲ猶豫セラレタルキ其兄補充員ニ當籤スルキハ弟ヲ翌年徵集スヘキ儀ニ候哉將補充員ハ一ヶ年間服役スルモノナレハ翌々年徵集スヘキ儀ニ候哉

○陸軍省指令十八年一月十四日(電報)

第三條 前段伺之通

第十七條第二項 現役中死没又ハ公務ノ爲メ負傷シ若クハ疾病ニ罹リ免役シタル者ノ

兄或ハ弟一人

○廣嶋縣伺明治十七年八月十六日

○徵兵令 免除及猶豫



第十九條 徵兵令第十七條第二項現役中死没者ノ兄弟一人ハ徵集猶豫ニ屬スヘキノ處茲ニ甲乙丙ノ兄弟アリ甲ハ現役中死没ス依テ乙ハ自然相續ノ權アルモノ相續戶主トナリタル時丙者ハ甲者ノ現役中死没シタル廉ヲ以テ徵集猶豫トナルヘキ哉

○陸軍省指令九月六日

第十九條 伺之通

○群馬縣伺同 十七年 九月十二日

第一條 爰ニ兄弟六人アリ其長男ハ適齡ニ男志願シ同時ニ徵集ニ應スルヲ以テ長男ハ猶豫セラレニ男服役中又ハ三男適齡四男ハ志願シ五六男モ逐年同斷ナルモ亦同シ同時ニ徵集ニ應スルルハ徵兵令第十七條第一項ニ據リ其郡度一人ハ猶豫セラル、儀ト心得可然哉

○陸軍省指令十月二日 十八日

第一條 一人ノ外猶豫ニ屬セス

○第十七條 戶主年齡滿六十歲以上ノ者ノ嗣子或ハ承祖ノ孫第三項 明治十七年 一月廿八日(電報)

○岡山縣伺同 一月廿八日(電報)

改正徵兵令第七條第三項ニ養子養孫ハ含蓄セサルヤ若シ含蓄セサルルハ相續人ハ如何心得ヘキヤ且同令改正前戶主トナル者ハ父六拾歲未滿ナルモ猶豫ニ屬スルヤ

○陸軍省指令二月六日 (電報)

去月二十八日電報伺前段改正徵兵令十七條三項ハ養嗣子養承祖ノ孫モ含蓄ス中段相續人ハ猶豫ニ屬セス後段十七年一月以後滿二十歲トナル者ハ戶主トナルノ日改正前後ヲ問ハス總テ新令ニ據リ處分スル儀ト心得ヘシ

○和歌山縣伺同十七年 二月五日 (電報)

改正徵兵令十七條三項ノ嗣子ハ實子ニ限ルヤ

○陸軍省指令二月七日 (電報)

○徵兵 令免除及猶豫



○徵兵令 免除及猶豫

徵兵令十七條三項ノ嗣子ハ實子ニ限ルヤノ伺右ハ養實ノ區分ナシ

○嶋根縣伺 同十七年  
二月十八日

改正徵兵令第十七條第三項之儀ニ付岡山縣伺へ相續人ハ猶豫ニ屬セサル旨御省御指令之趣官報第百八十號ニ相見へ候處抑モ相續人ト唱フルモノハ尊族親へ家督ヲ讓ルルハ弟及妹等ヲ以テ嗣子ト定メシモノ、嗚呼ニシテ養嗣子養承祖ノ孫ト其性質毫モ異ナルナキノミナラス續柄ヨリ論スルモ前養子養孫ヨリ却テ家系上其當ヲ得タルモノニ有之畢竟該御指令之要旨ハ六十歳以上ノモノ、弟又ハ妹等ニシテ徵兵年齡ニ相當スル如キ少壯者ハ無之理ナルニ據ルモノト存候ニ付養弟ヲ以テ相續人トセシ如キ實際右ニ相當スルモノ有之節ハ勿論猶豫ニ屬スル儀ト存候

○陸軍省指令 三月十日

伺之趣假令養弟ヲ以テ相續人ト爲スモ徵集猶豫ニ屬セサル儀ト可心得事

○滋賀縣伺 同十七年  
二月十九日

第一條 徵兵令第十七條第三項ノ戸主ハ男女ヲ論セス總テ六十歳以上ノ者ヲ指稱スル儀ニ有之候哉 (分錄)

○陸軍省指令 五月三日

第一條 伺之通

○東京府伺 同十七年  
八月十二日

第四條 華士族ノ戸主及ヒ嗣子承祖ノ孫舊法ノ除族若クハ新法ノ公權剝奪ニ仍リ其族ヲ失ヒ平民籍ニ入りタルヲ以テ其跡跡ヲ繼キタル戸主及ヒ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫ハ令第十七條第三項第四項及ヒ第五項ニ依リ猶豫ニ可屬哉

第六條 令第十七條第一項第二項中ニ海軍準卒モ含有致シ候哉

第七條 令第十七條第二項中西南ノ役出張戰死及ヒ負傷セシ巡查ハ含有セサルヤ

○陸軍省指令 九月十日

第四條 除族ニ依リ其族ヲ失ヒ跡ヲ繼キタル戸主及ヒ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫ハ

○徵兵令 免除及猶豫



猶誤ニ屬セス公權剝奪ハ重罪ノ附加刑ナルヲ以テ其刑ニ處セラル、ニ依リ跡ヲ續キタル戸主及ヒ更定ノ嗣子相續人ハ猶豫ニ屬ス

第六條 第七條 伺之通

○和歌山縣伺 同十七年八月日欠

第二條 同令第二十三條揭示條項ノ外ハ養嗣子ニシテ令第十七條第三項ノ名稱ヲ得ル者ハ各自届出後ニ係ルモノト雖<sub>レ</sub>征集猶豫ニ屬ヘキ歟

○陸軍省指令 九月四日

第二條 伺之通

○大分縣伺 同十七年八月廿九日

第十七條 戸主死亡遺子アリ丁年未滿ニシテ生計上差支アルニ付遺妻ハ後夫ヲ迎ヘ以テ戸主タラシメ而シテ前顯ノ遺子ヲシテ繼父ノ嗣子トス右ハ繼父年齡六拾歳以上ナル<sub>レ</sub>ハ該嗣子ハ徵集猶豫ニ屬シ候哉

○陸軍省指令 十月十四日

第拾七條 伺之通

○山口縣伺 同十七年八月三十日

第一條 令第二拾二條一項附籍戸主及ヒ附籍戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ例第百五拾八條ニ相當スルモノハ全ク世襲ノ一戸主同様ト見做シ嗣子或ハ承祖ノ孫ハ徵兵令削定後取極メタルモノト雖モ令第拾七條三項ニ據リ可然哉

○陸軍省指令 十月十四日

第一條 伺之通

○愛媛縣伺 同十七年九月十二日

六十歳以上ノ者ニテ養子ヲ一旦戸主トナセシモ事故アリ<sub>ニテ</sub>養子<sub>ニテ</sub>ニ<sub>テ</sub>不具等 退隱解線ノ上養父再ヒ相續ス然ル處其事故後解ケ養子歸線セシメ戸主トナス或ハ徵兵適齡以前ノモノニテ實父ノ死亡跡ヲ繼キシ戸主事故アリ退隱シ弟妹等ニテ跡相續セシモ是又

○徵兵令 免除及猶豫



○徵兵令 免除及猶豫

二百五十〇

事故アリ退隱シ前戸主再ヒ相續戸主トナルモノアリ右ハ一家ノ事情不得止場合ヨリ相續變換致候得共結局原ノ位地ニ復シタルモノナレハ検査時限内外ヲ問ハス該戸主徵集猶豫ニ屬スヘキ哉

六十歳以上ノモノ、養子不得止事故養疾不具等ニアラスニ據リ嗣子ヲ罷メ實家へ離縁復籍ス後チ右事故解ケ歸縁ノ上再ヒ原ノ位置ニ復シタルキハ徵兵検査時限内外ヲ問ハス徵集猶豫ニ屬スヘキ哉

○陸軍省指令 九月二十九日

書面兩項共猶豫ニ屬セサル儀ト可心得事

○新潟縣伺 同 十七年九月十六日

第二條 年齡六十歳以上ノ戸主養嗣子ヲ離縁シ尙又回家ノ嗣子ニ再縁シタルモノ令第十七條第三項ニ據リ猶豫可相成哉

○陸軍省指令 九月十五日

第二項 猶豫ニ屬セス

○福嶋縣伺 同 十七年十一月十四日

第三條 六十年未滿ノ戸主死亡長男嗣子幼少ノ故ヲ以テ六十歳以上ノ祖父再ヒ相續ス於是乎右幼者ハ六十歳以上ノ戸主承祖ノ孫ニ該當スルヲ以テ勿論徵集猶豫ニ屬スヘキ哉

○陸軍省指令 十一月廿二日(電報)

第三條 伺之通

○京都府伺 同 十七年十一月十五日

獨女子ヲ差措キテ他ヨリ養子ヲ貰請嗣子トナス片右女子ハ自身ニ自家相續ノ權利ヲ有セサルモノニ付設ヘ女子其身ニ癡疾不具又ハ重罪等之事故無之トモ該養嗣子ハ令第廿二條諸項ヲ以テ取調フヘキモノニ無之ト相心得可然哉

○陸軍省指令 十一月廿七日

○徵兵令 免除及猶豫

二百五十一



○徵兵令 免除及猶豫

二百五十二

伺之通

●第十七條 戶主癱疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムル能ハサル者ノ嗣子或  
第四項 ハ承祖ノ孫

○宮城縣伺 明治十七年八月八日

第二條 徵兵令第十七條第四項ノ癱疾不具等トハ其症徵顯然タル者ノミニ限ルヘ  
クヤ將タ全ク癱疾不具ニ陥ラサルモ之ニ齊シキ重病又ハ老衰等ニ罹リ一家維持  
シ難キ情實ヲ以テ出願スル者アルキハ醫官ノ診斷ニ依リ徵集猶豫ニ處分可然哉

○陸軍省指令 八月二日 十八日

第二條 前段伺之通

○廣嶋縣伺 同十七年八月十六日

第十五條 徵兵令第十七條第四項及ヒ同令第二十二條諸項ニ當ル癱疾不具等ノ者  
他府縣ニ於テ檢査ヲ受クル場合甲縣ニ於テ其道齡者ハ己ニ檢査済抽籤ノ場合ニ

至ルモ右癱疾不具等ノ者乙縣ニ於テ未ダ檢査済ニ至ラス或ハ數日前檢査済ナル  
ヘキモ遠隔ノ地方等ニテ其通知ノ未ダ到達セサルトキハ適齡者ノ處分如何スヘ  
キ哉

○陸軍省指令 九月六日

第十五條 抽籤セシメ置クベシ

○京都府伺 同十七年九月一日

第一項 徵兵令第十七條第四項ニハ相續人ノ明文無之候處實際ニ就テ見ルトキハ  
間々壯年ノ者ニテ俄カニ不具癱疾又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルヲ以テ不得止弟  
等ヲ以テ相續人トナスノ場合ナキニアラス此ノ如キハ其名相續人ト雖モ其一家  
ニ欠ク可ラサル事ハ毫モ嗣子承祖ノ孫ト異ナルコトナシ故ニ第十七條四項中ニ包  
含スルモノト看做シ取扱可然哉

○陸軍省指令 十月七日

○徵兵令 免除及猶豫

二百五十三



○徵兵令 免除及猶豫

二百五十四

第一項 相續人ハ猶豫ニ屬セサルモノトス

○山口縣伺 同 十七年  
十二月十一日(電報)

除族跡ヲ六十歳未滿ノ女子相續ス其後除族者再相續シ年齡六十歳以上トナル者ノ  
養嗣子モ猶豫ナラサルヤ

○陸軍省指令 同 十二月十五  
日(電報)

伺之通

○高知縣伺 同 十七年  
十二月廿六日

徵兵令第十七條第四項ノ戶主癩疾又ハ不具ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者  
ノ嗣子或ハ承祖ノ孫徵集猶豫セラルヘキハ前條項ニ據リ明文有之候處現今大患ニ  
シテ生計ヲ營ムコト能ハス又ハ他ニ看護スヘキ家族等モ無之事情甚タ困難ニシテ醫  
官検査ノ上數月ヲ經過セサレハ其癩疾者タリ不具者タルノ確認致シ難キモノ法ニ  
成文無之候得共一ケ年ヲ限リ徵集猶豫相成義ニ有之候哉

○陸軍省指令 同 十八年一月廿  
六日(電報)

猶豫ニ屬セサル儀ト心得ヘシ

○第十七條 戶主  
第五項

○大坂府伺 明治十七年  
一月廿一日(電報)

今般徵兵令改正ニ付猶豫徵集ノ區分ハ發令ノ日ヲ以テ分界トシ譬ヘハ新舊令ヲ對  
照シ舊令ニテ免役ニ相當スル戶主新令ニテ徵集部分ニ入ルモ廿八日以前ニ係ル者  
ハ新令第十七條第五項ニヨリ猶豫ニ屬スヘキヤ無論ト存候得共爲念相伺候

○陸軍省指令 同 一月廿四  
日(電報)

徵兵令改正ニ付猶豫徵集ノ區分伺右ハ十七年一月以後滿二十歳トナル者ヨリ新令ヲ  
適用スルヲ以テ假令舊令ニテ免役ニ相當スル戶主ト雖 旧新令ニテ徵集部分ニ入ル者  
ハ發令前後ヲ論セス徵集スヘキ儀ト心得ヘシ

○鹿兒嶋縣伺 同 十七年六  
月廿四日

○徵兵令 免除及猶豫

二百五十五



○徵兵令 免除及猶豫

二百五十六

本年六月第二十號布告(經家期)發布以前ニ在テハ單身戸主死亡又ハ除籍後該家名ヲ繼承スル期限ノ制規無之ヨリ死亡又ハ除籍後五十日ヲ過キタル家名ヲ繼承シタル戸主ハ絶家再興ノ戸主トシ十三年第三号布告ニ依リ猶豫ヲ與フルモノハ此限ニアラス舊徵兵令第二十八條第一項但書ニ照シ徵集ノ處分致來候處今般第十四號布達ヲ以テ從前死亡又ハ除籍シタル者ハ第二十號布告施行ノ日ヨリ滿六ヶ月以内ニ跡相續ヲ届出ルコトヲ得ル旨被達候上ハ該布達發布以前ニ在テハ單身戸主死亡又ハ除籍後數月又ハ數年ノ後相續シタル戸主モ尋常死跡相續同様ノ効チ有スルモノニ可有之果シテ然ルキハ本年徵集名簿中右ニ該當ノ者ニシテ他行不參ノ爲メ翌年回ト相成居候者ハ免役ノ部ニ編入換取計可然歟

本年徵兵適齡即來十八年ノ徵兵ニシテ本年第十四號布達ニ依リ届出タル戸主ハ無論改正徵兵令第十七條第五項ニ依リ徵集猶豫ニ可屬果シテ然ルキハ數月又ハ數年以前死亡シタル跡相續ヲ届出タル者モ同様徵集猶豫ニ可屬歟

○陸軍省指令 八月二日

第一項 伺之通

第二項 現ニ戸籍上家名ノ存スル者ニテ跡相續ヲ届出タル者伺之通

○茨城縣伺 同十七年七月十四日

單身ニアラサル戸主死亡後跡相續ニ關シ親屬中協議相諾ハサルカ爲訴訟等ノ起ルアリ其他種々ノ情實ニ依リ若シ六ヶ月以外ニ相續ヲ爲シタルモノ徵兵適齡ニ際シタルトハ猶豫ニ屬スヘキ儀ト思考被致候得共右ハ設ヒ何等ノ事情アリト雖モ六ヶ月以内ノ相續ニアラサレハ徵集可相成哉

○陸軍省指令 八月十四日

伺之通單身ニ非サル戸主死亡後六ヶ月外ニ相續シタル者ハ徵集猶豫ニ屬スル儀ト可心得事

○静岡縣伺 同十七年八月六日

○徵兵令 免除及猶豫

二百五十七



○徵兵令 免除及猶豫

二百五十八

第一條 戸主死亡男子ナク又ハ男子アルモ幼穉ニシテ相續シ難ク其寡婦若クハ女子、戸主トナリ該女戸主へ入婿戸主トナル者ハ令第十七條第五項ニ據リ徵集猶豫ニ屬スヘキ哉

第二條 年齢六十歳以上ノ戸主ニシテ嗣子承祖ノ孫又ハ相續人幼穉ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ據リ廢嫡ノ上更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫ハ徵兵事務條例第三百三十九條ニ據リ徵集猶豫ニ屬スヘキ哉

○陸軍省指令 八月十日

第一條 女戸主年齢六十歳未滿ナルキハ入婿ノ戸主ハ徵集猶豫ニ屬セス

第二條 徵集猶豫ニ屬セス

○佐賀縣令 同十七年八月二日

第三條 舊律除族ノ刑ニ處セラレ戸主トナリタルモノハ徵兵適齡ナルキハ除族ノ際戸主非戸主ノ別ナク令第十七條第五項ニ照シ猶豫スヘキ哉

○陸軍省指令 九月六日

第三條 伺之通

○大坂府令 同十七年八月十一日

第一條 棄兒無籍人ニシテ一戸新立ノ戸主徵否ノ明文無之然ルニ舊令實施中右一戸新立戸主ノ儀ニ付別紙寫ノ如ク御指令有之右等ノモノハ引受人ノ籍ニ編入養子等ノ名義アル者ヲ除クノ外ハ本令第十七條第五項ノ戸主ト同視シ可然哉(別紙略ス)

○陸軍省指令 九月六日

第一條 棄兒無籍人ニシテ一戸新立ノ戸主ハ猶豫ニ屬セス

○大坂府令 同十七年八月廿日

第一條 徵兵令第十七條第五項相當ノ戸主退隱シ祖父母父母(總テ六十年以上ノモノ)へ相續ヲ讓リ更ニ其嗣子承祖ノ孫トナリタルモノハ同例第二十二條第三項ニ依ラスシテ同第十七條三項ニ依リ猶豫ニ屬スヘキ哉

○徵兵令 免除及猶豫

二百五十九



○陸軍省指令 九月二日

第一條 猶豫ニ屬セサル儀ト可心得事

○靜岡縣伺 同十七年八月廿日

戸主幼年且身体虚弱等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ據リ戸主ヲ罷メ年齢六十歳以上ノ者ニシテ其跡ヲ繼キ戸主トナリ數年ヲ經テ前戸主健康ニ復シタルヲ以テ再ヒ戸主トナル者ハ徵兵令第十七條第五項ニ據リ猶豫ニ可屬哉

○陸軍省指令 九月五日

伺之趣猶豫ニ屬セサル儀ト可心得事

○和歌山縣伺 同十七年八月廿日

第一條 徵兵令第二十二條第二項第三項第四項ニ當ル嗣子承祖ノ孫ニシテ死跡ヲ相續ノ者ハ同令第十七條第五項ニ據リ徵集猶豫ニ屬スヘキ歟

○陸軍省指令 九月四日

第一條 伺之通

○大分縣伺 同十七年八月廿九日

第七條 六十歳未満ノ者隱居シ長男家督相續ノ後死亡ス仍テ其次男則實弟ヲシテ死跡ヲ相續セシメ直ニ戸主トナル者アリ右ハ次男適齡ノ際隱居ノ父年齢尙六十歳未満ナルキハ徵集シ六十歳以上ナルキハ徵集猶豫ニ屬シ候哉

第八條 戸主存在中養嗣子ヲ離別シ其後死亡ニ依リ遺妻家督ヲ繼キ其上定メタル

養嗣子ハ養母ノ年齢六十歳以上ナルキハ徵集猶豫ニ屬シ候哉

○陸軍省指令 十月十四日

第七條 隱居ノ父六十歳未満ナルモ猶豫ニ屬ス

第八條 伺之通

○鹿兒嶋縣伺 同十七年九月六日

第十一項 戸主ニ非スシテ新刑法施行前國事犯ノ科ニ依リ除族ノ刑ニ處セラレ

○徵兵令 免除及猶豫



戸主トナリタル者及ヒ舊刑法ニ照シ除族ノ刑ニ處セラレ戸主トナリタル者ハ徵集猶豫ニ屬スヘキ歟

第十二項 年齢六十歳未滿ノ戸主ニシテ前項ノ刑ニ處セラレタル跡ヲ繼キ戸主トナリタル者並ニ嗣子承祖ノ孫相續人前項ノ刑ニ處セラレタル故ヲ以テ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫又ハ年齢六十歳以上ノ者ニシテ除族跡ヲ繼キ戸主トナリタル者ノ嗣子承祖ノ孫ハ徵集猶豫ノ限ニ無之歟

○陸軍省指令十月七日

第十一項 第十二項 伺之通

○山形縣伺同十七年九月十一日

六十年未滿ノモノ(癩疾不具ニ非ラス又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニアラス)戸主退隱シ丁年未滿ノ者へ相續相讓候後該戸主疾病ニ罹リ癩疾又ハ不具トナリ一家ヲ經營スル能ハサル爲メ猶又養嗣子又ハ相續人ヲ貰受ケ戸主トナス者アリ右ハ先々代隱居六十年未滿ト雖モ先代戸主

顯然タル癩疾又ハ不具トナル者ハ徵兵令第十七條第五項ニ依リ猶豫ニ屬スルヤ

○陸軍省指令九月十九日(電報)

伺之通

○三重縣伺同十七年九月十三日

本年第二十二號ヲ以テ單身戸主死亡跡相續處分方布告相成第十四號ヲ以該布告施行ノ日ヨリ滿六ヶ月以内ニ跡相續ヲ届出ルヲ得ル旨布達セラレタリ當縣儀ハ内務卿へ伺ノ上獨身戸主死亡後六ヶ月間ニ親族故友ヨリ何等申立ヲ爲サ、ルモノハ絶家ノ處分ニ可及旨去ル十五年中各戸長へ相達置候ニ付死亡後六ヶ月外ニ涉リ未タ絶家ノ處分ヲ爲サ、ルモノハ無之筈然ルニ戸長ニ於テ調滿等ニテ未タ絶家ノ處分ヲ爲サ、ルモノ有之即今ニ至リ數年前ニモ籍編製後ヲ云フ死亡シタルモノ、跡相續方届出ルモノ有之右ハ畢竟戸長ノ粗漏ヨリ處分未濟ノ者ニ有之候得共本年第二十號布告及ヒ第十四號布達ニ據リ死亡跡相續者トシ共戸主徵兵ニ相當スルルハ徵兵令第十

○窪兵令 免除及猶豫



○徵兵令 免除及猶豫

七條第五項ニ據リ徵集猶豫スヘキ哉

○陸軍省指令 九月三日

伺之通

○島根縣伺 同十七年九月十五日

戸主死亡養嗣子アルモ故アリ死跡ヲ繼承セスシテ離別實家へ復歸該家ハ他ノ年齢六十歳以上ノ者相續シ而シテ徵兵適齡以前ノ者其戸主ノ養嗣子トナリ又更ニ戸主トナリシ者有之右ハ令第二十二條第三項ヨリ成立セル戸主即第六項及第八項ノ戸主ニ類似ノ者ニ候得共正シク該條ノ項目ニ該當セサルヲ以テ令第十七條第五項ニ據リ徵集猶豫セサルヘカラサル乎

○陸軍省指令 十月六日 (電報)

伺之通

○新潟縣伺 同十七年九月十六日

第一條 戸主失踪五ヶ年ヲ經サル跡ヲ繼キ戸主トナリタル者適齡ニ至リタル片前戸主失踪後已ニ五ヶ年以上ナル片ハ令第十七條第五項ニ據リ猶豫可相成哉

○陸軍省指令 九月十五日

第一條 徵集ニ應スヘキ年ノ一月ニ至リ前戸主失踪後五ヶ年以上ナルトキハ伺之通

○福嶋縣伺 同十七年十一月一日 (電報)

徵兵令制定以後年齢六十歳未滿之者隱居跡相續シ而シテ前戸主死亡セシ片ハ死跡相續ニ齊シキ廉ヲ以猶豫ニ屬スヘキヤ

○陸軍省指令 十二月十五日 (電報)

前戸主同戸籍中ニ在テ抽籤前死亡スルキハ伺之通

○愛知縣伺 同十七年十一月五日

六十歳未滿ノ戸主明治六年一月十日以前元治元年八月十日失踪シ十有餘年ヲ經過スルモ復歸セス他ニ繼承スヘキ者他家族ナシ無之不得止其母六十歳以上ノ者明治十三年中一時相

○徵兵令 免除及猶豫



○徵兵令 免除及猶豫

二百六十六

續戶主トナリ而シテ適齡前ノ者養嗣子ニ貫請直ニ戶主ヲ讓レリ其戶主ハ徵兵令第十七條第五項ニ據リ猶豫ニ屬スヘキ哉

○陸軍省指令 十二月廿三日(電報)

猶豫ニ屬セサル儀ト心得ヘシ

○千葉縣伺 同十七年九月十五日

徵兵事務條例第三百三十七條附籍戶主及ヒ其嗣子或ハ承祖ノ孫徵兵令第二十二條第一項ニ據リ徵集スト雖モ其戶主徵兵各自屆出期限即チ九月十五日以前ニ一戶ヲ設立スルキハ徵兵令第十七條第三項及ヒ第五項ニ據リ徵集猶豫ニ屬スヘシト有之右一戶ヲ設立スルキハ全ク一家屋ヲ設ケ生計相立候者ニ限ル儀ニ候哉又ハ他家ニ同居生計ヲ立ル者ト雖モ尙モ附籍ヲ離レ一戶主トナル以上ハ一戶ヲ設立スル者ト認メ可然哉

○陸軍省指令 十二月廿二日

後段伺之通

●第十八條 左ニ掲クル者ハ其事故ノ存スル間徵集ヲ猶豫ス

●第十八條 第一項 教正ノ職ニ在ル者

●第十八條 第二項 官立府縣立學校 小學校ヲ除クノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ官立公立學校教員タル者

○岐阜縣伺 明治十七年六月三十日(指令集)

第一條 徵兵令第十八條第二項ニ官立府縣立學校 小學校ヲ除クノ卒業證書ヲ所持スル者ニシテ云々有之別段修業ノ年限ヲ掲ケラレス就テハ去ル十四年八月文部省ヨリ第二十九號ヲ以テ達セラレタル師範學校教則之大綱第九條ノ通り修業ノ年限ヲ定メタル縣立師範學校ニ於テ初等學科而已卒業ノ上公立學校ノ教員タル者並ニ昨十六年文部省第二十號達ニ依リ應請卒業證書ヲ得教員タル者ハ本條ニ據リ徵集ヲ猶豫セラル、者ニ候哉

○徵兵令 免除及猶豫

二百六十七



○徵兵令 免除及猶豫

二百六十八

第二條 徵兵令第十九條ニ相當シ徵集ヲ猶豫セラレタル生徒事故アリ一旦退校ノ上更ニ原級へ入校シ或ハ在校中其目的ヲ高尚ニシ官立學校へ轉校シタル者検査期限内ニ係ラサルハ最前猶豫セラレタル年ヨリ通算シ尙本條ニ依リ徵集ヲ猶豫セラル、者ニ候哉

第四條 縣立師範學校ニ於テ卒業ノ者ニシテ公立學校ノ教員勤務中猶高尚ノ教員ヲランコト欲シ官立師範學校へ入學シタル者ハ其學校ニ於テ更ニ壹ケ年以上ノ科程ヲ畢ヘサレハ徵集ヲ猶豫セラレサルモノニ候哉

○陸軍省指令 八月十日

第一條 修業年限ハ徵兵事務條例第二百二十三條揭示ノ通應請卒業證書ヲ得教員タル者ハ猶豫ニ屬セス

第二條 伺之通

第四條 徵兵事務條例第三百三十五條揭示ノ通

○滋賀縣伺 同十八年八月廿三日 (指令集)

第一條 明治十五年<sup>十二月</sup>第五十九號布告教育令第三十五條ニ據リ公立師範學校ニ入ラス其學力之試験ヲ受ケ中等師範學科以上<sup>即ち學期ノ卒業證書ヲ得タルモノニ</sup>シテ官立公立學校ノ教員タル者ハ徵兵事務條例第二百二十三條揭示ノモノト同シク本令第十八條第二項ニ據リ其事故ノ存スル間徵集猶豫ニ屬スル儀ト相心得可然哉

第二條 徵兵事務條例第三百三十五條ニ示サレタル他ノ學校ハ公立立テ問ハサル儀ト相心得可然哉

○陸軍省指令 八月十三日

第一條 徵集猶豫ニ屬セス

第二條 伺之通

○富山縣伺 同十七年八月二日 (指令集)

○徵兵令 免除及猶豫

二百六十九



第二項 令第十八條第二項ニ當ル卒業證書之儀ハ事務條例第二百二十三條ニ明文有之候處同第三百三十五條之次第モ有之ニ付明治十三年太政官第五十九號布達教育令第三十八條但書ニ據リ學力檢定之上教員免許狀ヲ與ヘ現ニ小學校教員奉職中之者ハ令第十八條第二項ニ準シ取調可然哉

○陸軍省指令 八月廿三日

第二項 令第十八條第二項ニ準スルノ限ニアラス

○和歌山縣伺 同十七年八月廿九日 (指令集)

第三條 同事務條例第二百二十三條ニ依レハ在校修業ノ年月ヲ問ハス學力優等ノ爲メニケ年以上ノ學期ニ定メタル學校ニ於テニケ年以上ノ課程ヲニケ年未滿ニシテ卒業シ教員ノ職ニ在ルモノハ令第十八條第二項ニ據リ其事故存スル間徵集猶豫可相成歟

○陸軍省指令 九月四日

第三條 伺之通

○若手縣伺 同十七年九月十日 (指令集)

徵兵令第十八條第二項官立府縣立學校ノ卒業證書ヲ所持スルモノニシテ官立公立學校教員タルモノトアリテ徵集猶豫セラル、旨ヲ示サレタリ然ルニ縣立師範學校卒業證書ハ之ヲ與フルニ二個ノ方法アリ其一教育令第三十四條ニ公立師範學校ニ於テハ本校卒業ノ生徒ニ卒業證書ヲ與フヘシト是ナリ其二同令第三十五條ニ公立師範學校ハ本校ニ入學セサルモノト雖モ卒業證書ヲ請フ者アラハ其學業ヲ試驗シ合格ノモノニハ卒業證書ヲ與フヘシト是レナリ而シテ此兩條ニ據リ得タル卒業證書ハ其有効年限モ彼是異ナル所ナク外都テ取扱方ニ於テ異ナラサルハ蓋シ同一ノ學事ヲ修メタルニ因ルモノニシテ其資格亦異ナル所ナキナリ依是觀之學校ニ入學シタルニ非ス殊ニ請フテ得タル卒業證書ヲ有シ公立學校教員タルモノト雖モ徵兵年齡ナルハ徵集猶豫ニ屬スヘキハ疑ヲ容ルヘカラサルモノ、如シ故ニ管下郡局長



○徵兵令 免除及猶豫

二百七十一

伺出ルコアルモ亦徵集猶豫ニ属スヘキ旨ヲ以テセリ然ルニ本年六月三十日付岐阜縣伺其第一條御指令ニ依レハ右ノ如キハ徵集猶豫相成ラサル趣ニ有之然レハ當縣ノ見解ハ其當ヲ得サルモノナルヘキ歟果シテ然ラハ指令等速ニ取消方取計フヘシ候得共尙退テ講究仕候ニ既ニ前ニ陳述仕候通り該證書資格ニ於テ異同ナキモノトシ學事上取扱ヲ齊フセハ獨リ兵事上ニ於テ彼是ヲ區別スルノ理ハ無之哉ニ存候ニ付一應相伺候

○陸軍省指令 九月十五日

伺之趣應請卒業証書所持ノ者ハ公立學校ノ教員タルモ猶豫ニ属セサル儀ト可心得事

○椽木縣伺 同十七年十月三十一日 (指令集)

教育令第三拾五條ニヨリ府縣立師範學校ヨリ附與シタル卒業證書ノ効力ハ元ヨリ全令第三十四條ニヨリ附與シタル者ト敢テ輕重異同無之義ト信認候得共今回御發布相成候徵兵令第十一條第十八條第二項ニ記サレタル旨モ有之云々本年一月和歌

山縣ヨリ文部省へ相伺候處伺之通ト御指令相成タル旨官報第百七十九號ニ有之ニ付無論徵兵令第十八條第二項ニ該當スル者ト確認罷在候然ルニ本年九月六日内外兵事新聞局出板徵兵事務伺指令集ヲ閱スルニ本年六月三十日岐阜縣ヨリ陸軍省へ伺其第一條後段ニ昨十六年文部省第二十號達ニヨリ則ニ二ケ年以上科程ヲ卒リタル應請卒業證書ヲ得教員タル者ハ徵兵令第十八條第二項ニ據リ徵集ヲ猶豫セラルハヤ云々ニ對シ應請卒業證書ヲ得教員タル者ハ猶豫ニ属セスト御指令相成候趣記載有之就テハ何レニ準據シ可然哉甚々了解ニ苦ム所ニ有之且本年八月二日大阪府ヨリ陸軍省へ伺ニ條例第百廿二條學期二ケ年以上ノ學校云々トハ必ス該校ニ於テ修業二ケ年以上ノ課程ヲ卒リタル證書ニ限ルヤ將タ他ノ學校ヨリ轉學シ若クハ家居獨學ノ者入學シ該校ニ於テ二ケ年以上ノ課程ヲ卒リタル證書ヲ得タルモノモ右ニ準シ卒業證書ノ効力ヲ有スル儀ト心得可然哉ニ對シ伺之通ト御指揮相成タル旨該指令集中ニ掲載有之左スレハ家居獨學ノ者一旦入學シ一日若クハ一ヶ月間其在學ノ長短

○徵兵令 免除及猶豫

二百七十三



ニ拘ハラスニ夕年以上ノ學科ヲ卒業スレハ猶豫ニ屬スル儀ニ可有之存ハ其學力等  
相等シキ應請卒業証ヲ得タル者ハ一旦入學セサルカ爲メニ徵集セラレ一ハ多少在  
學シタルカ爲メ猶豫セラル、儀ト相心得可然哉果シテ然ラハ教育令第卅四條ニヨ  
リ附與シタルモノト第三十五條ニ據リ附與シタルモノト其証書ノ効力ハ大ニ輕重  
異同有之儀ト相心得可然哉

○陸軍省指令 十八年二  
月五日

伺之通

但シ客年一月和歌山縣伺ニ對スル文部省指令ハ教育上ニ關シ其証書ノ効力ニ輕重  
異同ナキヲ示シタル儀ト可心得且客年六月岐阜縣伺ニ對スル陸軍省ノ指令ハ教育  
令第三十四條ノ卒業証書ヲ有スルモノニテ文部省明治十四年第貳拾九號達第十三  
條但書ニ據リタル証書ヲ含有セサル儀ト可心得事

●第十八條 官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校本科生徒

○富山縣伺 明治十七年  
八月二日 (指令集)

第三項 官立大學校本課生徒ノ儀ハ令第十八條三項ニ有之候處豫備門等之生徒ハ  
令第十九條ニ可準儀ニ可有之哉

第四項 令第十九條ニ官立府縣立學校之生徒ト有之ハ縣立師範學校豫科生徒モ含  
蓄候儀ニ可有之哉

○陸軍省指令 八月廿  
七日

第三項 第四項 伺之通

○岡山縣伺 同十七年八  
月十三日 (指令集)

第七項 令第十八條第三項大學豫備門修業中ノ生徒ハ含蓄セサル哉

○陸軍省指令 九月  
三日

第七項 伺之通

●第十八條 陸海軍生徒海軍工夫

●第四項

○徵兵令 免檢及檢豫



○徵兵令 免除及猶豫

二百七十六

○陸軍省甲第三拾七號明治十七年八月廿五日

農商務省所轄東京商船學校生徒ノ儀ニ付太政官ヨリ別紙ノ通御達相成候條爲心得此旨相達候事

農商務省所轄東京商船學校生徒ノ儀ハ海軍豫備員志願者ニ限ルヲ以テ徵兵令第十八條第四項(陸海軍生徒 海軍工夫)海軍生徒ニ準シ候條此旨相達候事

○德嶋縣伺明治十七年九月二日 (指令集)

第六條 海軍水火夫及陸軍下士(教導團生徒ヨリ)現役服役中ノモノハ本令第十八條第四項ニ包含候哉若又包含セサルモノトセハ右等ハ如何取扱可然哉

第七條 前條ノ者果シテ本令第十八條第四項ニ包含スルモノトセハ調査ノ手續ハ條例第二十條但書ニ準シ可然哉

○陸軍省指令十月二日 十五日

第六條 包含セス

第七條 調査ノ手續ハ水火夫ニ在テハ伺之通下士ハ各自届出ニ據リ條例第七書式其ニ名簿ニ登記スヘシ

○德嶋縣伺同十七年九月十三日 (指令集)

第一條 明治十七年相當徵兵ニシテ教導團生徒志願検査合格ニ付終ニ十八年廻トナリタルモノニシテ該團ノ都合ニヨリ後次召募ノ節入團ヲ命スヘク旨通牒アル者ハ徵兵令第十八條第四項ニ準シ徵集猶豫ニ取調可然哉

○陸軍省指令十一月十四日

第一條 猶豫ニ屬セス

○滋賀縣伺同十七年十一月廿六日 (電報) (指令集)

海軍志願兵徵募規則ニ據リ徵募ニ應シタル卒又ハ准卒ハ徵集猶豫ナラサルヤ

○陸軍省指令十二月廿九日 (電報)

猶豫ニ屬スル儀ト心得ヘシ

○徵兵令 免除及猶豫

二百七十七



○徵兵令 免除及猶豫

●第十八條 第五項 身体未タ定尺ニ滿タザル者

○德嶋縣伺 明治十七年九月二日 (指令集)

第一條 徵兵令第十八條第五項第六項及第八項第九項相當ノモノト雖モ其資格先入兵ナルモハ徵集猶豫名簿ニ記載セス凡テ先入兵不參名簿ニ其事由ヲ區別シ記載スヘキ哉

○陸軍省指令 十月二十五日

第一條 伺之通

○長野縣伺 同十七年九月十二日 (指令集)

第一條 徵兵令第十八條第五項ノ定尺ハ四尺九寸ト相心得可然哉

○陸軍省指令 十月一日

第一條 伺之通

○德嶋縣伺 同十七年十月廿八日 (指令集)

第一條 前年送徵兵ニテ令第十八條第五項第六項第八項第九項等該當徵集猶豫ノ者常備年期ノ第七年検査時限ニ於テ尙該條ニ相當スルモノハ徵兵令第三十二條ニ據リ第二豫備徵員ニ編入スヘキ處其資格先入兵ナルモ尋常徵兵同様取扱可然哉

第二條 前年相當ノ者届漏又ハ相當ノ年官吏ノ調誤リ等ニテ常備年期ノ第七年ニ至リ發願徵集ニ際シ身体検査ノ節令第十八條第五項第六項ニ相當シ次年ニ至リ身体發育又ハ合格ノ見込ナキモノ及ヒ同條第八項第九項ニ當ルモノハ先入兵ト否トニ拘ラス直ニ第二豫備徵員ニ編入シ可然哉

○陸軍省指令 十一月二十日

第一條 令第十八條第五項ニ當ルモノハ伺之通其他ハ尋常徵兵同様取扱フノ限ニラス

第二條 官吏ノ過失ニ係ルモノ常備年期ノ第七年検査時限ニ於テ第十八條ノ項目ニ

○徵兵令 免除及猶豫



○徵兵令 免除及猶豫

二百八十一

當ルトキハ第二豫備徵員ニ編入スヘシ先入兵ハ同條第五項ニ當ルモノヲ除クノ外  
第二豫備徵員トスルノ限ニアラス

●第十八條 第六項 疾病中或ハ病後ノ故ヲ以テ未タ勞役ニ堪ヘサル者

○熊本縣伺 明治十七年十一月廿九日 (電報) (指令集)

陸軍醫官徵兵検査規則第四條身體之發育未タ充全ノ度ニ至ラサル者ト有之右等名  
簿調製ノ儀ハ令第十八條六項ノ部ニ組入可然哉

○陸軍省指令 十二月四日 (電報)

伺之通

●第十八條 第七項 學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者

○岡山縣伺 明治十七年十二月十日 (電報) (指令集)

布哇國寄留ノ者全戸單身ヲ問ハズ徵集猶豫ナルヤ

○陸軍省指令 同十二月廿三日 (電報)

學術修業ノ爲メ寄留ノ者ニ非サレハ猶豫ニ屬セサル義ト心得ヘシ

○三重縣伺 同十七年十二月十九日 (指令集)

茲ニ縣下在籍者ニシテ布哇國へ渡航シ農業ニ從事致度旨願出候者ノ中本年徵兵適  
齡又ハ適齡未滿ノ者有之右ハ單身ト全戸トニ拘ラス出稼中ハ徵集猶豫可相成哉將  
々内國徵兵未行地寄留者同様事務條例第五百十條ニ準シ取扱可然哉

○陸軍省指令 十二月二十七日 (電報)

本年適齡ノ者ハ差止メ今後適齡ノ者モ猶豫ニ屬セサル儀ト心得ヘシ

○茨城縣伺 同十七年十二月廿六日 (指令集)

第一條 學術修業ノ爲メ外國へ寄留スル者令第十八條第七項ニ明文有之候得共商  
業其他ノ故ヲ以テ學術修業ニアラス外國ニ寄留スル者ノ取扱方ハ徵兵令及ヒ事務條例中明  
文無之ニ付徵集猶豫ニ屬セサルハ勿論ノ儀ト存候得共茲ニ本年適齡ノ者商業其  
他ノ故ヲ以テ明治十二年頃ヨリ外國へ寄留シ若クハ本年検査時限ノ前外國へ渡航

○徵兵令 免除及猶豫

二百八十一



○徵兵令 免除及猶豫

二百八十二

セント出願セシ者等取扱方如何相心得可然哉

○陸軍省指令 七八年一月十日(電報)

第一條 密留中ノ者ハ呼返シ又ハ寄留セントスル者ハ差止ムヘシ

●第十八條 禁錮以上ニ該ル可キ刑事被告人トナリ裁判未決ノ者

○大阪府伺 明治十七年二月七日 (指令集)

第一條 新令第十八條第八項禁錮以上ニ該ルヘキ云々ハ審理判決宣告ノ后ニ非ラサレハ之ヲ確認スルノ途無之モノト存候處右ハ如何ノ方法ヲ以テ認知スル御趣意ニ候哉

○陸軍省指令 四月一日

第一條 現ニ發覺スル所ノ所爲當該官吏ニ於テ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘシト認知スル者ヲ云モノニシテ別ニ確認スルノ制規ハ無之モノトス

○靜岡縣伺 同十七年八月九日 (指令集)

第二項 賭博犯之處分未決者ハ既ニ處分ヲ受ケ懲罰中之者ト同様徵集猶豫ニ屬スヘキ哉

○陸軍省指令 九月五日

第二項 伺之通

●第十八條 公權停止中ノ者

●第十九條 官立府縣立學校小學校ヲ除クニ於テ修業一ケ年以上ノ課程ヲ卒リタル生徒ハ六ケ年以内徵集ヲ猶豫ス

○宮城縣照會 明治十七年十一月七日 (官報抄錄)

御學生徒今非彦三郎儀徵兵事務條例第百三拾貳條ニ據リ最寄徵兵検査所へ出頭身體検査相受候様御取計相成度候也

○大學校回答 十一月十二日

本學生徒今非彦三郎儀徵兵事務條例第百三拾貳條ニ據リ最寄徵兵検査所へ出頭云々

○徵兵令 免除及猶豫

二百八十三



御通牒ノ趣領承然ルニ同人儀ハ本科生ニ無之文學部附屬古典講習科圖書課第七期生徒ニ有之候間徵兵令第十九條(官立府縣立學校ニ於テ修業一ケ年以上ノ課程ヲ卒業シタル生徒ハ六個年以内徵集ヲ猶豫ス)ニ該當スヘキ生徒ニテ同令第拾八條第三項(官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校本科生徒)ニ該當スヘキ生徒ニハ無之候ニ付該檢査所へ出頭爲致候筋之者ニハ無之候條此段御回答旁申進候也

但本學法學部別課法學科、醫學部別課醫學科、同部製藥學科、文學部附屬古典講習科、生徒ハ何レモ本科生ニ無之故徵兵令第十九條ニ該當ノ者ニ候條爲御心得此旨申添候也

○岡山縣伺 明治十七年八月十三日 (指令集)

第一項 令第十九條官立府縣立學校ニ於テ修業一ケ年以上ノ課程ヲ卒業シタル生徒ハ六ケ年以内徵集ヲ猶豫ストアリ而シテ事務條例第百三十條ニ在テ七ケ年間其資格ヲ失ヒタルハ徵集スト有之爰ニ縣立師範學校修業中之者徵兵適齡ノ年ハ初等科一ケ年ノ課程ヲ卒業リ中等科修業中ノ故ヲ以テ令第十九條ニ依リ猶豫ニ屬

シ仍ホ修業中高等科ヲ卒業ニ於テハ遂ニ六ケ年ヲ經過スルニ至ル者有之ハ事務條例第百三十條ニ據リ七ケ年間ハ猶豫可相成哉

○陸軍省指令 九月三日

第一項 高等科修業中ノ者ト雖ヒ六ケ年ヲ過クレハ徵集スヘキモノトス

○山口縣伺 同十七年八月三十日 (指令集)

第二條 令第十七八條ノ者常備年期中檢査時限外ニ名稱ヲ止メ更ニ令第十九條ノ名稱ヲ得シ時猶豫年期ノ起算方ハ徵兵相當ノ年ヨリスルカ或ハ更ニ名稱ヲ得タル時ヨリ算シ可然哉

○陸軍省指令 十月十四日

第二條 二十一歳トナル年ノ四月廿日ヨリ起算スヘシ

○鹿兒嶋縣伺 同十七年十一月十三日 (電報) (指令集)

東京大學醫學部別科醫學科生徒ハ徵兵令第十八條第三項同一ノ取扱致シ可然哉

○徵兵令 免除及猶豫



○徵兵令 免除及猶豫

二百八十六

○陸軍省指令十一月十九日(電報)

東京醫學部別科生ハ令十八條三項ニ含有セス十九條ニ據リ取扱フヘキ儀ト心得ヘシ

●第二十條 左ニ掲クル者ハ豫備兵ニ在ルト後備兵ニ在ルトヲ問ハス復習點呼  
ノ爲メ召集スルコトナシ但戰時若クハ事變ニ際シテハ太政官ノ決裁ヲ經テ召  
集スルコトアルベシ

●第二十條 官吏判任以上及ヒ戶長

○石川縣伺明治十七年七月九日(指令集)

縣立師範學校書記ハ明治十五年太政官第八號御達ニ准官等十一等以下十七等以上  
ト有之右ハ徵兵令第二十條第一項ニ含蓄スル者ナルヤ

○陸軍省指令八月五日

伺之趣縣立師範學校書記ハ徵兵令第二十條第一項ニ含蓄セサル儀ト可心得事

●第二項 教導職試補ヲ除ク

○陸軍省甲第四拾八號附縣(沖繩札幌報)明治十七年十一月十九日

本年第十九號布達ヲ以テ教導職被廢候ニ付テハ徵兵令第十八條第壹項及ヒ第二十召  
第二項ハ消滅ニ屬シ候處舊教導職タリシ者ハ其在職ノ時ノ等級ニ準シ徵集又ハ集條  
ヲ猶豫シ又明治十四年一月ヨリ同十六年十二月迄ニ滿貳拾歳トナリタル者ニテ舊徵  
兵令ニ據リ既ニ教導職試補以上ニテ國民軍ノ外免役ニ處分セシ者ハ其儘聞クヘキ儀  
ト可心得此旨相達候事

○內務省伺明治十七年九月五日(官報抄錄)

今般第十九號布達ヲ以テ教導職被廢候處第六十九號公達身分ハ總テ其在職ノ時ノ  
等級ニ準シ取扱フ者ト有之候ニ付從前ノ宗派ニ屬シ布教ニ從事スル者徵兵事務條  
例第十八章第百五拾三條ニ據リ更ニ徵集ニ應スルニ不及儀ト相心得可然哉

○太政官指令十一月八日

舊教導職タリシ者ハ其在職ノ時ノ等級ニ準シ徵集又ハ召集ヲ猶豫ス可シ

○徵兵令 免除及猶豫

二百八十七



○徵兵令 免除及猶豫

二百八十八

但舊徵兵令ニ據リ處分セシ者ハ其儘閣ク可シ

○福井縣伺 明治十七年(電報) (官報抄録)

本年第十九號(神佛教導職ヲ廢シ寺院ノ住職ヲ任免シ及教師ノ)ヲ以テ教導職廢セラレタルニ依リ從來該職ニテ免役ノ者ハ自カラ其資格ヲ失ヒタル者トシ條例第五百十三條ニ依リ徵集スヘキ儀ト心得可然哉

○陸軍省指令 十一月四日

去月六日電報伺教導職ニテ免役トナリタル者云々ノ儀ハ徵集ニ及ハサル儀ト心得ヘシ

●第廿三項 官立公立學校教員

○福嶋縣伺 明治十七年(指令集)

第二條 官立公立學校教員ハ本令第二十條第三項ニ依リ豫備兵ニ在ルト後備兵ニアルトナ問ハス復習點呼ノ爲メ召集セラレサル儀ニ有之候處右教員ハ官立縣立

學校ノ卒業證書ヲ所持セサルモ訓導<sup>准判</sup>トナリタルモノハ都テ本條ニヨリ取扱可然哉

○陸軍省指令 七月二日 十六日

第二條 伺之通

●第廿四項 府縣會議員

●第廿五項 官立府縣立醫學學校ノ卒業證書ヲ所持シテ醫術開業ノ者

●第廿一條 官省院廳府縣ニ於テ餘人ヲ以テ代フ可カラザル技術ノ職ヲ奉スル者ハ太政官ノ決裁ニ依テ徵集ヲ猶豫スルコアルヘシ

○太政官第八拾四號 官省院<sup>同</sup> 達 十月十四日

明治十六年<sup>十二</sup>月 第四拾六號 布告徵兵令第二十一條ニ依リ徵集猶豫伺出ノ節ハ本人履歷并其技術ニ係ル明細書ヲ添フヘシ此旨相達候事

●第廿二條 左ニ掲グル者ハ第十七條ニ照シテ徵集ヲ猶豫スルノ限ニアラス

○徵兵令 免除及猶豫

二百八十九



○徵兵令 免除及猶豫

二百九十一〇

●第一項 附籍戸主及ヒ附籍戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

●第廿二條第二項 廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重

罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ嗣子承祖ノ孫若クハ相續人ヲ罷

メ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫

○大坂府伺 明治十七年 五月七日 (指令集)

改正徵兵令第二十二條第二項第五項上段及第八項ノ嗣子承祖ノ孫トアルハ男女ノ區別無之哉

○陸軍省指令 五月廿四日

伺之趣男子ニ限ル儀ト可心得事

○滋賀縣伺 同十七年 二月十九日 (指令集)

第三條 徵兵令第二十二條第二項第八項ノ嗣子承祖ノ孫又ハ相續人ハ男子ニ限リタル儀ニ有之候哉 (分錄)

第四條 前條相續人トハ叔伯父兄弟等ヲ指稱スル儀ニ有之候哉

○陸軍省指令 五月三日

第三條 第四條 伺之通

○千葉縣伺 同十七年 八月九日 (指令集)

第二項 徵兵令第二十二條第二項廢疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ嗣子承祖ノ孫若クハ相續人ヲ罷メ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫ハ徵集猶豫ノ限ニ無之ト有之就テハ幼稚ノ嗣子承祖ノ孫アリ之ヲ相廢シ更ニ他ノ子弟ヲ以テ定メタル嗣子承祖ノ孫ト雖モ該條ニ據リ徵集猶豫ニ屬セサル儀ニ候哉

○陸軍省指令 八月二日

第二項 伺之通

○東京府伺 同十七年 八月十二日 (指令集)

○徵兵令 免除及猶豫

二百九十一



○徵兵令 免除及猶豫

二百九十二

第二條 甲家六十歳以上ノ者ノ養嗣子承祖ノ孫甲家ヲ離縁シ乙家ヘ復籍ノ上更ニ甲家ヘ再縁セシ者ハ他ノ子弟ヲ以テ更定セシモノニハ無之候得共當初廢疾不具等ノ故ニアラスシテ離縁セシ者ナルトハ令第二十二條第二項ニ據リ徵集スヘキ儀ニ候哉

第三條 六十歳以上ノ者ノ嗣子承祖ノ孫家事向都合ヲ以テ廢嫡ノ上分籍別戸主セシメ後又都合上ヨリ廢戸復籍更ニ嗣子承祖ノ孫ト定メタル者ハ當初廢疾不具等ノ故ニアラスノ廢嫡セシ者ニ付令第二十二條第二項ニ據リ徵集スヘキ儀ニ候哉

○陸軍省指令 九月十日  
第二條 第三條 伺之通

○岡山縣伺 同 十七年 八月十三日 (消令集)

第八項 爰ニ六十歳以上ノ戸主養子嗣子ナシ事故アリ離縁シ而シテ再ヒ該養子ヲ復縁セシムル者檢査時限外ニ係ルルハ猶豫ニ屬スヘキ哉

○陸軍省指令 九月三日  
第八項 猶豫ニ屬セス

○徳嶋縣伺 同 十七年 九月二日 (消令集)

第五條 徵兵令第二十二條第二項ノ廢疾不具並ニ重罪ノ刑ニ處セラレタル嗣子承祖ノ孫及相續人ヲ罷メ云々トアルハ同戸籍中ニ現在スルモノ而已チ指稱セシハ事務條例第百三十九條ニ明記セリ然ルニ其廢疾不具或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノ廢嫡ノ後該家(養子等)離縁シ生家ヘ復籍シ更定ノ嗣子承祖ノ孫徵兵相當ノ節前嗣子承祖ノ孫及相續人(前廢嫡セシモノ)生家他府縣ニ現住スルルハ事務條例第百四十六條ニ準シ廢嫡者現住地ノ府縣及適齡(更定ノ嗣子承祖ノ孫)者其住地ノ府縣ヘ願出サセ而シテ前廢嫡者ノ身体檢査ヲ遂ク然ル後該檢査セシ府縣ノ通知ヲ得テ更定ノ嗣子承祖ノ孫ヲ徵集猶豫ノ處分ニ及フヘキ儀ニ候哉

○陸軍省指令 十月十日

○徵兵令 免除及猶豫

二百九十三



第五條 伺之通

○京都府伺 同十七年九月一日 (指令集)

第二項 徵兵令第二十二條第二項ニ依レハ嗣子タルモノ廢疾不具トナルカ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルカ爲メニ止テ得ス更ニ定メタル嗣子ハ徵集猶豫ニ屬スヘキモノト認メラレ候處新刑法實施以前士族ノ長男ニシテ破廉耻ノ罪ヲ犯シ除族ノ刑ニ處セラレタルヲ以テ更ニ次男ヲ嗣子トナスカ如キハ事實不得止儀故矢張重罪ノ刑ニ處セラレタルモノト同様ト看做シ其更定ノ嗣子ハ徵集猶豫ニ屬シ候哉

第三項 改正徵兵令發行前養子 嗣子ニ定メス ナスモ不熟ナルヨリ離縁シ更ニ他家ノ子弟ヲ貰受嗣子トナス此養子改令徵兵適齡ニ至リ養父戸主六十歳以上ナレハ令第十七條第三項ニ依リ徵集猶豫ニ可屬乎將タ男子ナキモノ、養子ハ自ラ相續權ヲ有スル儀ニシテ假令以前ノ養子ハ嗣子ニ取極メサル旨申立ルモ後ノ養嗣子ハ本

令第二十二條第二項ニ據リ取扱可然哉

○陸軍省指令 十月七日

第二項 猶豫ニ屬セス

第三項 後段伺之通

○群馬縣伺 同十七年九月十二日 (指令集)

第三條 年齢六十歳以上ノ戸主ニシテ嗣子承祖ノ孫又ハ相續人幼穉ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハス廢嫡ノ上更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫ハ猶豫ニ屬セサル儀ハ徵兵事務伺指令抜萃錄第三號中静岡縣伺御指令 (本編徵兵令第十七條第五項ノ部ニ出ツ) ニ據リ了解候得共若シ前條更定ノ嗣子承祖ノ孫ヲ要セサレハ忽チ一家ノ浮沈ニ係ルカ如キ事情有之モノト雖モ敢テ徵集ヲ猶豫セサル儀ト心得可然哉

○陸軍省指令 十月十八日

伺之通

○徵兵令 免除及猶豫



○徵兵令 免除及猶豫

二百九十六

○熊本縣伺 同十七年(電報) 十一月七日

令第二十二條二項ノ實養父及六項八項ノ前戸主六十歳以上ナルカ又ハ癆疾不具重罪ノ事故アルルモ更定ノ嗣子後戸主ハ猶豫ニ属スル哉

○陸軍省指令 十一月十七日(電報)

令二十二條二項ノ實養父並ニ六項ノ前戸主同籍中ニ在ルルモ後戸主猶豫ニ属シ八項ノ前戸主六十以上ナルモ又ハ癆疾不具重罪ノ事故アルモ後戸主猶豫ニ属セス

●第二十二條 第三項

年齢六十歳未満ノ戸主癆疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムル

能ハサルニ非ス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷

メ年齢六十歳以上ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主ノ嗣子或ハ承祖

ノ孫

○愛知縣伺 同十七年(指令集) 三月十日

茲ニ年齢六十歳未満ノ戸主アリ長次男ヲ有シ其長男未ダ適齡ニ至ラス然ルニ之ヲ

廢嫡シテ更ニ六十歳以上ノ戸主ニ養嗣子トナス者有之ルハ令第十七條第三項ニ照シ猶豫ヲ與フヘキハ勿論ニ候處素其廢嫡タルヤ不得止事故アルニ非ス畢竟徵兵規避ノ情ニ出ツルニ外ナラサルモノト認ムル場合ニ於テハ如何取扱可然哉

○陸軍省指令 十月十日

伺之趣長男ハ徵集猶豫ニ属シ更ニ定メタル嗣子ハ徵兵令第二十二條第二項ニ據リ徵集スヘキ儀ト可心得事

○茨城縣伺 同十七年(指令集) 六月廿六日

第一條 孤獨ノ女戸主夫ヲ迎ヒサレハ一家ヲ維持シ難キヲ以テ入婿ス然ルニ婿者適齡ナルルモ其婦產業營ニ能ハサルモ徵集スル儀ト心得可然哉

第二條 孤獨ノ女戸主癆疾不具ニアラサルモ天資虛弱ニシテ常ニ病褥ヲ離レス爲ニ入婿シ單ニ生活ヲ要スル其婿者適齡ナルルモ徵集スル儀ト心得ヘキ哉

○陸軍省指令 同七月十五日

○徵兵令 免除及猶豫

二百九十七



第一條 第二條 伺之通

○佐賀縣伺 同十七年 八月二日 (指令集)

第五條 徵兵令第二十二條第三項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ其徵集ニ應スヘキ年ノ一月マテニ前戸主(同戸籍中ノ者)已ニ六十歳ニ至ルカ又ハ各自届出ヲ爲ス年ノ九月十五日迄ニ癡疾又不具トナリ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサル者ニ齊キト又重罪ノ刑ニ處セラレタルト雖モ徵集猶豫ニ屬セサル哉

第六條 徵兵令第二十二條第三項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ第六項ニ據リ戸主トナリシ後前々戸主前條ノ場合ニ至ルトモ徵集猶豫ニ屬セサル哉

○陸軍省指令 九月 六日

第五條 第六條 伺之通

○滋賀縣伺 同十七年 八月七日 (指令集)

第一條 六十歳未満ノ者隠居シ其嗣子或ハ承祖ノ孫ヘ戸主ヲ讓與シ實家ヘ復籍或

ハ分家又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタルモノ他日家事ノ都合ニ依リ再ヒ該家ニ復歸シタルトキ其戸主嗣子或ハ承祖ノ孫ノ徵集ニ應スル年ノ一月ニ至リ既ニ父六十歳以上トナルモノハ徵集猶豫ニ屬スル儀ト相心得可然哉

第二條 嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ一旦家督相續ノ後ニ至リ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非ス癡疾又ハ不具等ニ非スシテ隠居シ父再相續最前ノ戸主嗣子或ハ承祖ノ孫ヲ以テ更ニ嗣子ニ定メタルモノハ父ノ年齢ニ拘ハラズ徵集猶豫ニ屬セサル儀ト相心得可然哉果シテ然ラハ養子戸主ニシテ隠居又ハ養嗣子ニシテ實家ヘ復籍ノ後尙又熟談ノ上該家ヘ再縁從前ノ如ク嗣子ニ定メタルモノモ同様相心得可然哉

○陸軍省指令 八月二 十三日

書面兩條共伺之通

○鹿兒嶋縣伺 同十七年 八月十一日 (指令集)

第一項 徵兵令第二十二條第三項ノ六十歳以上ノ戸主即六十歳未満者ノ跡ヲ繼キタルモノノ死亡或ハ癡疾



○徵兵令 免除及猶豫

三百〇〇

不具又ハ重罪ノ事故ニテ其嗣子或ハ承祖ノ孫戸主トナリ該戸主徵兵滿齡之年尙同項前々戸主六十歳未満ナルルハ徵集猶豫ニ不属哉

○陸軍省指令 九月四日

第一項 猶豫ニ属ス

○三重縣伺 同 十七年 九月十七日 (指令集)

明治十四年一月以後滿二十歳トナル者ニノ舊徵兵令ニ據リ戸主ノ廉ニテ一旦徵集猶豫セラレタル者常備年期中ニ戸主ヲ罷メ廢疾不具重罪ノ事故ナク前戸主實養父再相續ヲナシ直ニ嗣子ノ位置ニ復ス右戸主ヲ罷メタルルハ再相續ノ戸主年齢六十歳以上ナルルハ徵兵令第十七條第三項ニ準シ徵集猶豫ニ属スヘキ哉將々同令第二十二條第三項ニ準シ徵集猶豫ニ属セサル儀ニ候哉

○陸軍省指令 九月十五日

書面後段伺之通

○三重縣伺 同 十七年 十二月一日 (電報) (指令集)

六十歳未満之戸主廢疾不具等之事故ナク戸主ヲ止メ廢疾之者戸主トナリ更ニ定タル嗣子戸主ト成モ猶豫之限ニ非スヤ

○陸軍省指令 十二月二十七日 (電報)

伺之通

○福嶋縣伺 同 十七年 十二月一日 (電報) (指令集)

長男嗣子アル六十歳未満之戸主養子ニ戸主ヲ讓リ己レ長男ヲ引連レ分籍ノ後死亡スルカ又ハ六十以上ト成タルルハ本家戸主則該ニ戸主ヲ讓リシ養子ハ徵集猶豫ニ属スヘキヤ

○陸軍省指令 十二月十日 (電報)

猶豫ニ属セサル義ト心得ヘシ

○岡山縣伺 同 十七年 十一月七日

○徵兵令 免除及猶豫

三百〇一



爰ニ甲戸主アリ舊律ニ依リ除族トナリ六十歳以上ノ者ニシテ本族ヲ繼キタル戸主ノ嗣子ハ令第二十二條第三項ニ准據シ猶豫ニ不属儀ニ候處前戸主除族後死亡シ右嗣子戸主トナル者アリ甲戸主ハ法律上一戸ヲ新設セシメタル者ニシテ尋常隠居相續スルモノト異ナリ候ニ付前顯ノ如キ除族戸主己ニ死亡シタルハ同戸籍中ノ者ニ非スト雖モ事務條例第四百十條ニ准據シ更迭ノ戸主ハ徵集猶豫ニ属シ候儀ト心得可然哉

○陸軍省指令十一月廿七日(電報)

猶豫ニ属セサル儀ト心得ヘシ

○大坂府伺同十七年十一月廿五日(電報) (指令集)

徵兵令第二十二條三項ノ現戸主癘疾トナルハ其嗣子ハ猶豫スヘキヤ

○陸軍省指令十二月二日(電報)

猶豫ニ属セサル儀ト心得ヘシ

○第廿二條 第四項 分家シ又ハ絶家若クハ廢家ヲ再興シタル戸主及ヒ其戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫

○三重縣伺同十七年四月八日(電報) (指令集)

新令第二十二條四項ノ戸主死亡シ其跡ヲ繼キタル戸主ハ猶豫ノ限ニ無之哉

○陸軍省指令四月十日(電報)

新令第二十二條四項ノ戸主死亡シ跡ヲ繼キタル戸主ハ猶豫ニ属スル儀ト心得ヘシ

○嶋根縣伺同十七年三月三十一日(指令集)

明治七年第七拾四號公布ニ依リ僧尼原籍不分明又ハ復籍ヲ望マスシテ現在地へ籍相定候者ハ徵兵令第二十二條第四項ニ準ジ戸主及其戸主ノ嗣子或ハ承祖ノ孫ハ徵集猶豫ノ限ニ無之哉

但眞宗並舊修驗等世襲ノ者ハ徵兵令第十七條第三項乃至第五項ニ準シ徵集猶豫ニ属スヘキヤ

○徵兵令 免除及猶豫



一無籍者ニシテ原籍不分明新ニ編籍セシモノハ前條本文同様可相心得哉

○陸軍省指令八月二日

書面兩項共通之通

○埼玉縣伺同 十七年 四月廿八日 (指令集)

第二條 夫死亡シ子女ナク其寡婦戸主トナリ或ハ父死亡シ男子ナク其女子又ハ父ノ姉妹戸主トナリ若シハ他家ノ女子ヲ貰受ケ戸主トナシタル者へ入籍戸主トナルモノ徵兵相當スルルハ如何相心得可然哉

第三條 令第二十二條第四項分家シ云々明文有之候處僧尼ニシテ明治七年第八號公布(僧尼誘誘)ニ據リ定籍ノ戸主トナル者ハ該項ニ含有セサル儀ト相心得可然哉

○陸軍省指令八月二日

第二條 女戸主年齢六十歳未満ナルルハ入籍戸主ハ猶豫ニ屬セス

第三條 令第二十二條第四項ニ含有ス

○大坂府伺同 十七年 八月十一日 (指令集)

第二條 養子離縁復籍ノ際其生家廢絶ノ故ヲ以テ更ニ一戸新立ノモノ内務省指令ニヨリハ實家ヲ再興スルモ更ニ一戸ヲ新立スルモ妨ケナシトアリ右ハ戸籍上各自ノ目的ニヨリ一戸新立ヲ許スト雖其性質タル絶家再興ト異ナルヲナキヲ以テ前條棄兒無籍人ヨリ成立タル戸主ト同視スヘキモノニ非スシテ本令第二十二條第四項ニ準シ徵集ニ應セシムヘキ哉

○陸軍省指令九月六日

第二條 伺之通

○群馬縣伺同 十七年 九月十二日 (指令集)

第二條 徵兵令第二十二條第四項ニ當ル戸主隱居シ其跡ヲ續キタル戸主及ヒ年齢六十歳未満ノ女戸主へ入籍戸主トナリタル者ハ徵集スト雖其徵集ニ應スヘキ年ノ一月迄ニ前戸主(隠居又ハ)死亡シタルルハ徵集猶豫ニ屬スヘキ哉

○徵兵令 免除及猶豫



○徵兵令 免除及猶豫

三百〇六

○陸軍省指令 十月二  
十八日  
同籍中に在テ抽籤前死亡スル時ハ猶豫ニ屬ス

○静岡縣伺 同 十七年  
十月廿九日 (指令集)

單身ノ戸主戸籍編製前死亡シ其際絶家ノ處分セサルモノニシテ該家名ハ戸籍ニ登  
記無之明治六年一月十一日以後郡長ノ許可ヲ得テ其名跡ヲ戸籍ニ編入セラレ然シ  
テ該家名ヲ相續シタル戸主ハ徵兵令第廿二條第四項ニ準シ徵集猶豫ニ屬セサル儀  
ト心得可然哉

○陸軍省指令 十一月二十  
日(電報)

伺之通

○鹿兒嶋縣伺 同 十七年 (電報) (指令集)  
十二月十八日

分家戸主六十歳以上ニシテ隱居シ其跡ヲ繼キタル戸主ハ事務條例第四百十條之權  
衡ニ因リ猶豫ニ屬ズル義ト心得可然哉

○陸軍省指令 十二月廿  
日(電報)

猶豫ニ屬セサル義ト心得ヘシ

●第廿二條  
第五項 嗣子承祖ノ孫失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ニ定メタル嗣子承祖ノ  
孫

○三重縣伺 明治十七年 (指令集)  
五月八日

第一條 徵兵令第二十二條第五項第九項ニ失踪云々トアリ逃亡セシ者モ同様處分  
スヘキヤノ旨本年二月中静岡縣ヨリ御省へ相伺候處逃亡者ハ五少年ヲ經過スル  
モ徵集猶豫ニ屬セサル旨御指令相成候趣同縣ヨリ承知致候就テハ失踪逃亡者從  
來本縣取扱ノ儀ハ全戸又ハ單身ノ者ト雖モ家出ノ際親戚隣保等へ何等申シ置カ  
ス家出後更ニ音信ナキ者ヲ逃亡者トシ出稼先ヨリ轉々居ヲ移シ遂ニ行符知レサ  
ル者ヲ失踪者トシ取扱候處右失踪者ハ最終ノ音信アリシ月ノ翌月ヨリ起算シ滿  
五少年ヲ經過シタル跡ニ定メタル戸主又ハ嗣子適齡ナル片徵集猶豫ニ屬スル儀

○徵兵令 免除及猶豫

三百〇七



○徵兵令 免除及猶豫

ト心得可然哉

○陸軍省指令 六月二  
十四日

第一條 失踪者ハ最終ノ音信アリシ月ヨリ起算シ滿五ケ年ヲ經過セシ跡ヲ續キタル  
戸主又ハ嗣子ハ徵集猶豫ニ屬ス

但家出ノ際親戚隣保等へ何等申置カス家出後音信ナキ者亦失踪者トス

○東京鎮臺伺 同十七年  
八月四日 (指令集)

第二條 其失踪ト定ムル期日ハ音信ナキ者ハ家出ノ日ヨリ又音信ヲ爲セシ者ハ最後  
音信ノ日ヨリ起算シ至五ケ年ト心得可然候哉

○陸軍省指令 八月十  
二日

第二條 家出後音信ナキ者ハ家出ノ月ヨリ音信アリシ者ハ最終ノ音信アリシ月ヨリ  
起算スヘシ

○佐賀縣伺 同十七年  
八月二日 (指令集)

第四條 戸主(年滿六十歳未満又  
單身全戸ノ列ナク)失踪五ケ年ヲ經サルモノ、跡ヲ繼キ戸主トナルモノ

其戸主徵集ニ應スヘキ年ノ一月マテ失踪五ケ年ナルトハ徵兵事務條例第四百十

一條ニ照シ猶豫スヘキ哉

○陸軍省指令 九月  
六日

第四條 其戸主徵兵ニ應スヘキ年ノ一月既ニ五ケ年ヲ經過セシモノニ非サレハ猶  
豫ニ屬セス

○高知縣伺 同十七年  
八月十六日 (指令集)

第二條 嗣子失踪シ未タ五年ヲ經サル内戸主死亡シ他ノ者ニテ其跡ヲ繼キタル戸主  
ハ徵集猶豫ノ限ニ無之哉

○陸軍省指令 九月  
四日

第二條 伺之通

○千葉縣伺 同十七年  
九月二十日 (指令集)

○徵兵令 免除及猶豫



本縣下ノ地形タル三面海ヲ帶ヒ實ニ半島ト稱スヘキ場所ナレハ隨テ海業ニ從事スル者數多ニシテ年々風波ノ爲メ漂流スル者尠ナカラス元來漂流者ハ其中ノ八九ハ溺死セシモノト思考セラレ候得共戶籍ノ法ニ於テハ失踪者同様其漂流セシ者年齡八十歳ニ至ラサレハ其名面ヲ削除セサル儀ニ有之然ルニ徵兵令第二十二條第五項ノ嗣子承祖ノ孫失踪シテ五ヶ年ヲ經サル者ノ跡ニ定メタル嗣子承祖ノ孫並同條第九條ニ失踪シテ五ヶ年ヲ經サル者ノ跡ヲ繼キタル戶主ト有之漂流者ノ儀ハ別ニ明文ハ無之候得共乃チ失踪者ニ付失踪者ヲ以テ處分シ其五ヶ年ヲ經タルモノ、跡ヲ繼キタル戶主及ヒ五ヶ年ヲ經タルモノ、跡ニ定メタル嗣子承祖ノ孫ハ令第十七條第三項及ヒ第五項ニ依リ徵集猶豫セラレ候哉

○陸軍省指令 九月三十日

伺之通

○茨城縣伺 同十七年十月三十一日 (指令集)

第一條 令第二十二條第五項ノ失踪者ニシテ五ヶ年ヲ經過シタル跡ニ定メタル嗣子承祖ノ孫第九項ノ失踪者ニシテ同上ノ跡ヲ繼キタル戶主ハ檢査ヲ遂ケ而シテ後徵集猶豫ノ區分ヲ調理シ可然哉果シテ然ラハ願書ヲ徵スル義ニ候哉

○陸軍省指令 十一月十一日

第一條 檢査ヲ遂クルニ及ハス事由書ニ據リ調理スヘシ

○岩手縣伺 同十七年十二月廿二日 (指令集)

第六條 徵兵令第二十二條第五項及第九項失踪年月起算之儀家出ノ儘行衛知レザルモノハ家出ノ月旅行先ヨリ行衛知レザルモノハ最終ノ音信アリシ日ヨリ起算スヘキ旨諸縣伺ニ御指令有之ニ付疑團ノ廢去ル九月十一日相候處戶籍ニ騰記ノ月ヨリ起算スヘシ諸縣伺之儀ハ現ニ戶籍ニ騰記シアルモノニ就テノ起算方ヲ示セルモノト心得ヘキ旨御指令有之候然レハ茲ニ十三年一月失踪シタル旨十五一年一月申出ルモノアラシハ是等ハ申出ノ月ニ拘ハラヌ失踪セシト云フ十三年

○徵兵令 免除及猶豫



一月ヨリ起算シ或ハ失踪ノ月ヲ掲ケスシテ申出ルモノハ其申出ノ月ヨリ起算シ可然哉

○陸軍省指令十八年一月廿七日

第六條 證憑アルモノハ届出ノ月ニ拘ハラス失踪ノ當時ノ年月ニ溯リ證憑ナキモノハ届出即チ戸籍ニ登記ノ月ヨリ起算スヘシ

○長崎縣伺十七年十二月廿六日 (指令集)

戸主失踪シテ五ケ年ヲ過キタル者ノ跡ヲ繼キタル戸主ハ令第十七條第五項ニ依ルヘキハ勿論ニ候處其戸主徵兵適齡ニ至リ失踪セシ前戸主復歸家居スルモ徵集猶豫ニ屬シ候哉之趣本年八月七日靜岡縣伺ニ本人徵集ニ應スヘキ年ノ一月ニ至リ復歸セシ前戸主六十歳以上ナルハ何之通ト御指令有之候就テハ復歸セシ前戸主或ハ嗣子承祖ノ孫ト雖モ六十歳未滿ニシテ舊令施行中既ニ適齡ニ至リ徵集ニ應セシムヘキ者ナルハ前後ノ戸主或ハ嗣子承祖ノ孫共ニ徵集スヘキ義ニ候哉(第一)

○陸軍省指令十八年一月九日

第一項 伺之通

○第廿二條第六項

第二項第三項第四項ニ當ル嗣子或ハ承祖ノ孫ニシテ戸主癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニアラス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

○福岡縣伺十七年十月三十日 (指令集)

第二條 年齢六十歳以上ノ戸主其嗣子承祖ノ孫ヲ癡疾不具重罪等ノ事故ナクシテ之ヲ廢シ更ニ定メタル嗣子承祖ノ孫ニ戸主ヲ讓リシトキ其戸主タル者同籍ナルハ徵集猶豫ニ屬スヘキ旨埼玉縣伺ニ對シ御指令相成候處官報第三百九十一号ニ出ツ右ハ令第二十二條第六項ニ矛盾ヲ生シ候様被存候就テハ同項ノ成文ハ同籍中ニアラサル者ニテ該御指令ノ廉ハ同籍中ニ在ルニ據リ徵否ノ差有之儀ト解釋致可然哉

○陸軍省指令十八年十一月

○徵兵令 免除及猶豫



第二條 伺之通

○若手縣伺 同 十七年 十二月廿二日 (指令集)

第七條 癡疾不具等ノ爲メ一家ノ生計ヲ營ム能ハサルモノニシテ分家シタル戸主ノ嗣子承祖ノ孫ハ徵集可相成之處該父祖隱居シ家督スルモ令第二十二條第六項ノ癡疾不具等ニシテ隱居シタルモノ、跡ヲ繼キタル戸主ニ當ルモノニアノラサルヘクニ付徵集スヘキ儀ニ候哉

○陸軍省指令 十八年 一月廿七日

第七條 伺之通

○第二十二條 第七項

年齡六十歳未満ノ者癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコ能ハサルニアラス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニアラスシテ戸主ヲ罷メ其跡ヲ繼キタル戸主

○陸軍省甲第四十九號 (府縣沖繼札概根 明治十七年 十二月四日 室ノ三願ヲ除ク)

明治十四年一月ヨリ同十六年十二月迄ニ滿二十歳トナリタルモノニテ適齡ノ當時舊

徵兵令第二十八條 (國民軍ノ外 兵役ヲ免ス) 第三項 (年齡五十歳以上ノ者) 第四項 (キ者ノ養子嗣子或ハ相續人)

若クハ第二十九條 (平時ニ於テ 兵役ヲ免ス) 第一項 (年齡五十歳未満ノ者) ニ據リ嗣子承祖ノ孫及ヒ相續人

ノ名稱ヲ有シ免役ニ屬シ新徵兵令發布後常備年期間ニ在テ戸主隱居シ其跡ヲ續キ戸主トナリ前戸主年齡六十歳未満ナルキハ徵兵事務條例第五百十三條第五百十四條前段ニ據リ徵集スヘキ儀ニ候處本年各府縣徵兵抽籤ノ當日迄ニ免役名稱ヲ罷メ更ニ免役名稱ヲ得タルモノハ其當時届出ヲ爲スモノト否トヲ問ハス其儘免役ニ屬シ抽籤翌日以後ニ係ルモノヨリ新徵兵令第二十二條第七項ニ據リ更ニ徵集スヘキ儀ト可心得此旨相達候事

○三重縣伺 明治十七年 六月十八日 (指令集)

戸主死亡シ其男子相續スルモ幼年ニシテ一家ノ生計ヲ營ム能ハス依テ他人ヲシテ相續セシメ前幼戸主ヲ以テ嗣子トナセリ其後事故アリ (癡疾不具ニシテ一家ノ生計ヲ營ム能ハサルニアラス重罪ノ刑ニ處セラレ)

○徵兵令 免除及猶豫



○徵兵令 免除及猶豫

三百十六

タルニ相續人ヲ離縁シ嗣子再ヒ戸主トナルモノアリ養ニ死亡跡ヲ相續シタル者ト雖モ一旦戸主ヲ相續人ニ譲リ己ノ其嗣子トナリタル者ニ付徵兵令第二十二條第七項ニ據リ徵集猶豫ニ屬セサル儀ト可心得哉

○陸軍省指令 八月十四日

書面之趣嗣子再戸主トナルトキ離縁ノ相續人年齢六十歳未満ナレハ伺之通

○新潟縣伺 同 十七年 (指令集)

夫死亡シ男子ナク一時已チ得ヌ寡婦又ハ女子戸主トナリ該戸主へ入籍戸主トナル者ト雖<sub>レ</sub>令第二十二條第七項ニ依リ猶豫ノ限リニ無之儀ト心得可然哉

○陸軍省指令 八月十九日

女戸主年齢六十歳未満ナルハ伺之通

○山口縣伺 同 十七年 (電報) (指令集)

令第二十二條ニ觸レサル女戸主へ入籍ノ戸主ハ十七條五項ニ據ル哉

○陸軍省指令 八月十九日 (電報)

女戸主年齢六十才未満ナルトキハ新令第二十二條七項ニ觸レ猶豫ニ屬セサル儀ト心得ヘシ

○大分縣伺 同 十七年 (指令集)

第十六條 戸主死亡シ戸籍面長男アルモ其實他人ノ子弟ニシテ養子ナルヲ以テ戸籍上訂正ノ許可ヲ得養父ノ死跡ヲ繼カス離別復籍セリ而シテ曾テ他家養嗣子タリシ養子長男ヲ引戻シ直ニ亡父ノ死跡ヲ相續シ戸主トナリタル者アリ右ハ前養子<sub>六十歳未満</sub>養父ノ死跡ヲ繼カスト雖<sub>レ</sub>本令第二十二條第七項ニ準シ徵集猶豫ニ屬セサルヤ

○陸軍省指令 十月十四日

第十六條 猶豫ニ屬セス

○福岡縣伺 同 十七年 (指令集)

○徵兵令 免除及猶豫

三百十七



第六條 徵兵令第二十二條第七項ノ戸主徵集スヘシト雖も前戸主退隱後無止事情ニ依リ他家ノ養子トナリ又ハ實家へ復籍等ナシタル後實父六十歳未満ノ前々戸主癡疾不具ニ罹リ又ハ重罪ノ刑ニ處セラレ一家ノ生計營ム能ハサルハ該戸主ハ猶豫ニ屬スヘキ哉

○陸軍省指令十月二日

第六條 猶豫ニ屬セス

●第廿二條第八項

嗣子承祖ノ孫又ハ相續人癡疾又ハ不具等ニシテ一家ノ生計ヲ營ムコト能ハサルニアラス或ハ重罪ノ刑ニ處セラレタルニ非スシテ戸主ノ死亡跡若クハ戸主ヲ罷メタル跡ヲ繼カズ他ノ者ニシテ其跡ヲ繼キタル戸主

○大分縣伺明治十七年八月廿九日 (指令集)

第四條 男子三人ヲ有スル戸主其家督ヲ三男ニ相續セシメ自ラ長次男ヲ携ヘ他へ

分家スル者アリ右三男ハ更定ノ嗣子長男ハ分家ノ故ヲ以テ孰レモ徵集シ可然哉

○陸軍省指令十月十四日

第四條 伺之通

但三男ハ令第二十二條第八項ノ戸主ニ據リ徵集スヘキモノトス

○嶋根縣伺同十七年十一月十七日 (電報) (指令集)

令第二十二條八項之戸主其後相續セサル嗣子同籍中ニテ死亡セルハ猶豫ニ屬スルヤ

○陸軍省指令十一月廿日 (電報)

相續セサル嗣子同籍中ニテ死亡スルモ猶豫ニ屬セサル義ト心得ヘシ

●第廿二條第九項

戸主失踪シテ五個年ヲ經サル者ノ跡ヲ繼キタル戸主

○静岡縣伺明治十七年八月七日 (指令集)

第一項 徵兵令第二十二條第九項ニ戸主失踪シテ五ケ年ヲ經サル者ノ跡ヲ繼キタ

○徵兵令 免除及猶豫



ル戸主ト有之候ニ付五ヶ年ヲ過キタル者ノ跡ヲ過キタル戸主ハ同令第十七條第五項ニ依ルヘキハ勿論之儀ニ候處其戸主徵兵適齡ニ至リ失踪セシ前戸主復歸家居スルモ徵集猶豫ニ屬シ候儀ニ候哉

○陸軍省指令九月十日

第一項 本人徵集ニ應スヘキ年ノ一月ニ至リ復歸セシ前戸主六十歳以上ナルルハ何之通

○東京府伺同 十七年 八月十二日 (指令集)

第八條 令第二十二條第九項ノ戸主アリ適齡ノ節前戸主失踪セシヨリ五ヶ年ヲ過タルルハ六十才前後ノ區別ナク猶豫ニ可屬哉

○陸軍省指令九月十日 三日

第八條 伺之通

### 第四章 徵兵區及ヒ抽籤

○静岡縣伺明治十七年 八月九日 (指令集)

第二條 現役及ヒ補充當籤者自己ノ都合ニ依リ同兵種中籤ノ互換ヲ徵兵署ヘ願フ者アルモ許可不相成儀ニ候哉

○陸軍省指令八月十日 三日

第二條 伺之通

○茨城縣伺同 十七年 十月三十一日 (指令集)

第二條 本年八月九日 静岡縣伺第二條現役及ヒ補充當籤者自己ノ都合ニ依リ同兵種中籤ノ交換ヲ徵兵署ヘ願フ者アルモ許可不相成儀ニ候哉同日 伺之通十三日 下御指  
令有之右ハ親戚他人ノ區別無之義ト相心得可然哉

○陸軍省指令十一月十一日

第二條 伺之通

○茨城縣伺同 十七年 十二月廿六日 (指令集)

○徵兵令 徵兵區及ヒ抽籤



○徵兵令 補充員及豫備徵員

三百二十二

第二條 抽籤惣代人ノ儀ニ付去八月廿一日付東京鎮臺ヨリ御省ヘ兵長ヲ撰擧スルモ人民ノ適宜ニ任セ可然哉ト伺相成候處同月廿五日御省御指令ニ伺之通ト有之候得共兵長ノ如キハ純然タル官吏ナレハ一個私人ノ惣代人トナスハ不都合ノ様被相考候得共差支無之義ニ候哉果シテ然ラハ該役塲書記ヲシテ惣代人ヲラシムルモ差支無之哉

○陸軍省指令 十八年一月十日(電報)

第二條 伺之通

第五章 補充員及豫備徵員

○岡山縣伺 明治十七年一月十六日(指令集)

今般御省達甲第一號ヲ以テ徵兵使巡行期限之儀御達相成候ニ付テハ舊徵兵令第三十二條及第三十四條ニ揭示有之檢査時限ハ六月十日ヲ以テ區分相立候儀ト心得可然哉

○陸軍省指令 一月廿六日

伺之趣四月十日ヲ以テ區分スヘキ儀ト可心得事

○静岡縣伺 同十八年八月七日(指令集)

第三項 徵兵令第三十一條中第十八條第三項ノ生徒ニシテ他府縣ニ寄留スル者ハ一般寄留者ト均シク其寄留地府縣ニテ其年編入スヘキ第一豫備徵員ノ末番ヲ附シ編入スヘキ哉將テ原籍府縣ノ該員ニ編入スヘキ儀ニ候哉

○陸軍省指令 九月十日

第三項 原籍府縣ノ補充員末番號ニ繼キ其兵種一貫ノ番號ヲ附スヘキモノトス

○鹿兒嶋縣伺 同十七年九月六日(指令集)

第八項 徵兵令第十八條第三項ノ生徒ニシテニケ年以上ノ課程ヲ卒リタル者ハ年齡滿二十七歳迄之ヲ第一豫備徵員トスル旨同令第三十一條ニ揭示有之候處年齡二十歳トナル年ノ九月十五日以前既ニニケ年以上ノ課程ヲ卒リ居ル者ハ同年徵

○徵兵令 補充員及豫備徵員

三百二十三



兵検査ノ節徵兵事務條例第百三十二條ニ據リ身體ノ検査ヲ受ケシメ合格ノ上ハ直ニ第一豫備徵員ニ編入相成候歟

第九項 年齢二十歳トナル年ノ九月十五日以前ニ官立大學校及ヒ之ニ準スル官立學校ニ於テ二個年以上ノ課程ヲ卒リ事故アツテ退校ノ者及ヒ全科卒業ノ上退校ノ者ハ徵兵令第三十一條ノ第一豫備徵員ニ編入相成歟

第十項 徵兵署ニ於テ徵兵令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ニ編入セラレタル者該年四月十日以後ハ勿論四月十日以前ニ全科卒業ノ上退校スルモ既ニ徵兵署ノ處分ヲ受ケ第一豫備徵員ノ名稱ヲ得候上ハ更ニ現役ニ徵集スル限ニ無之候哉  
但全科卒業ニ至ラス事故アツテ退校ノ者モ第一豫備徵員編入相成候後ハ更ニ現役ニ徵集スル限ニ無之哉

○陸軍省指令<sup>十月七日</sup>

第八項 第九項 第十項 伺之通

○名古屋鎮臺伺<sup>同</sup>十七年十二月八日 (指令集)

現役兵抽籤後入營前ノ者並ニ補充員及第一豫備徵員服役中ノ者ニ在テハ陸軍武官結婚條例ニ據リ結婚之儀出願爲致候限リニ無之様相考候就テハ右結婚ノ儀ハ一般人ト同視シ各本人ノ自由ニ任シ結婚ノ上身上異動届ノ例ニ準シ爲届出候テ可然哉  
但現役輜重輸卒ニシテ郷里ニ在ルモノハ本文抽籤後入營前ノ者ニ準シ而シテ其豫備役後備役ニ編入スルルキヨリ結婚條例ニ據リ出願セシメ可然哉

○陸軍省指令<sup>十二月廿七日</sup>

伺之通

但書輜重輸卒之儀ハ郷里ニ在ル者ト雖モ現役年期中ハ結婚ヲ許サス其豫備役後備兵役中ノ者ハ伺之通

### 第六章 雜則

○陸軍省第貳号告示<sup>明治十七年十一月四日</sup>

○徵兵令 補充員及豫備徵員



明治十四年一月ヨリ同十六年十二月迄ニ滿貳十才トナリタル者ニノ舊徵兵令第廿八條(國民軍ノ外兵)乃至第三十一條(官省院使府縣準官吏御用掛御雇等ハ之ヲ免役セスト雖正餘人ヲ以テ代役ヲ免スル部)乃至第三十一條(アヘカラサル事務ヲ奉ムル者ノ如キハ同ニ太政官ニ具狀シテ裁決ヲ請フベシ)及ヒ第三十四條(第三十條ニ當リ一ケ年間ヲ限リ徵集ヲ猶豫スル者及ヒ第四十一條第四十二條第五十條ニ至リ猶該條ニ當ルルハ平時ニ於テ之ヲ免役スベシ)ニ據リ免役又ハ徵集猶豫ニ屬スル者常備年期ノ第七年検査時限内ニ在テ名稱ヲ罷メタルハ更ニ徵集スヘキ議ニ付本年九月十六日以後其名稱ヲ罷メタルハ新徵兵令第三十六條ニ據リ戶主ヨリ本籍ノ戶長ニ届出ヘシ此旨告示候事

但本文ノ届出ヲ爲サハルルハ新徵兵令第四十二條及第四十三條ニ據リ處分スヘキ者トス

○廣島鎮臺伺 明治十七年一月十二日 (電報) (指令集)

常備現役滿期解散スヘキ者ノ中客年十二月廿七日以前徵兵令四十一條ノ事故ニテ入營セシ者ト四十二條ニ當ル事故處分濟ノ者ハ同條ニ依テ是迄ノ通り扱フヘキ

哉

○陸軍省指令 一月廿八日 (電報)

常備滿期解散ノ者取扱ノ儀ハ徵兵令四十一條ノ事故ニテ入營セシモノハ是迄ノ通り四十二條ニ當ル事故ハ改正後ニ係ル禁錮逃亡等ノ日數ニ限り全條ニ因リ取扱フヘシ

○名古屋鎮臺伺 同十七年一月十二日 (指令集)

徵兵令第四十二條但書禁錮ノ刑ニ處シタル者ハ新舊律共ニ服役年期ニ算セサル儀ニ候哉然ルルハ舊律處分ノ者ハ新舊對照シテ新律禁錮ニ該ルヘキ者ノミナルヤ

○陸軍省指令 一月廿一日 (電報)

舊法ニ依リ處斷シタル者ハ徵兵服役年限ニ算入セサルノ限ニアラス

○東京鎮臺伺 同十七年一月廿一日 (指令集)

改正徵兵令第四十二條但書處分之儀ハ地方法術ニ於テ處分之者及陸軍刑法ニ據リ處分シタル者共徵兵令改正後ニ係ル者ヨリ取扱候儀ニ候哉果シ然ル時ハ常備兵入營



中及ヒ豫備兵後備兵召集中禁錮之刑ニ處セラレ又ハ逃亡シタル者ハ其刑期中並ニ逃亡中之日數ハ服役中ニ算入セサルハ勿論現役常備兵ニ在テハ滿刑後該日數ヲ償勤セシメ豫備兵後備兵ニ在テハ滿刑後該日數ヲ服役延期スヘキ儀ト心得可然候哉

○陸軍省指令 二月廿八日

伺之通

○名古屋鎮臺伺 同十七年一月廿八日 (指令案)

徵兵令第四十二條但書之儀ニ付御指令敬承ス尙十五年前之犯罪ニテ新舊比照法ニ依リ禁錮ニ處シタル者及ヒ新法之輕キニ從ヒ禁錮ニ處シタル者ハ服役年限ニ算セサル儀ト心得可然哉

○陸軍省指令 二月七日 (電報)

舊罪ト雖ヒ新法ニ依リ禁錮ニ處シタル者ハ新令頒布以後ノ日數ヲ服役年限ニ算入セサル儀ト心得ヘシ

○山梨縣伺 同十七年二月八日 (指令案)

従前兵役ヲ免シカ爲メ逃亡セシ者本年一月以後復歸候キハ新令第四十四條ニ依リ地方裁判所へ告發スヘキ筋ニ候ヤ或ハ陸軍刑法第百七條ニ適當候者ノ外ハ其罪ヲ問フヘキ限りニ無之哉 (第二項) (分錄)

○陸軍省指令 四月一日

第二項 前段伺之通

但復歸スルト否トヲ問ハス告發スヘシ

○嶋根縣伺 同十七年二月十六日 (指令案)

客年御省達甲第四十四號御達改正徵兵令中各條ハ本年一月以後滿二十歳トナル者ヨリ實施セラレ明治十四年徵兵 本年四月十日常備年期 第三年檢査時限滿期 ハ勿論本年徵兵 容年 適齡 マテハ舊令ヲ適用セラルヘク果シテ然ラハ本年徵兵ノ如キハ明治十九年四月十日迄ハ舊令第三十二條其他翌年回ノ處分方等總テ舊令ニ據リ取扱ヒ前陳新令各條ニハ關係無之

○徵兵令 雜則



歟

○陸軍省指令 三月十日

伺之通

○愛知縣伺 同 十七年 二月廿一日

徵兵令第三十七條ハ他ノ府縣ニ寄留スル則管轄外ノ寄留人ニ限ル御趣意ニシテ管内甲郡ノ者乙郡ニ全戸或ハ單身寄留シテ徵集ニ應セント欲スルモノ、明文ニ無之候得共一般人民商業上ノ都合ニ依リ乙郡へ全戸寄留スル者ノ長次男等適齡ニ際シ本人甲郡へ歸郷シテ徵集ニ應スルルハ却テ手數ヲ要スルノミナラス人民ニ於テ商業上甚迷惑不勘右等ハ乙郡ニ於テ徵集ニ應セント欲スルモノハ則本條ノ手續ヲ以願出ルモノハ全戸單身ノ區別ナク自今開屆不苦候哉

○陸軍省指令 三月十日

伺之趣元籍地ニ於テ徵集ニ應セシムヘキ儀ト可心得事

○長野縣伺 同 十七年 四月廿四日 (消令集)

第一條 徵兵令ニ據リ徵集ニ應スヘキモノニシテ逃亡スル者アリ其逃亡者ニ適齡ト適齡以前ノ者トアリ而シテ其逃亡ハ果シテ兵役ヲ免レンカ爲メカ將他ニ事故アルアリテ逃亡セシヤ之レヲ詳ニスル能ハスト雖トモ適齡ニ至リ検査期日迄ニ復歸セサルモノハ總テ兵役ヲ免レン爲メ逃亡セシ者ト見做シ徵兵令第四十四條ノ違犯者ト心得可然哉

第二條 徵兵令第三十七條ノ寄留地ニ於テ徵集ニ應スル儀ハ管轄外ノ寄留人ニ限リ候儀トハ存候得共當縣ノ如キハ第一第三ノ兩軍管ニ跨リ候ニ就キ第一軍管所屬ノ人民ニシテ第三軍管々轄郡ニ(一縣)寄留シ該地ニ於テ徵集ニ應セント欲スルモノハ本條ニ據リ開屆不苦候哉將々軍管ノ如何ヲ問ハス府縣ヲ異ニスルニアラサレハ本條ニ據ルヘキ限ニ無之哉

○陸軍省指令 五月十五日

○徵兵令 雜則



第一條 違犯者ト見做ト否トハ當該官吏ノ意見ニ委スル者トス

第二條 後段伺之通

○大坂府伺 同十七年  
二月七日 (指令集)

第二條 新令第四十三條第四十四條ノ罰則ハ公布後ハ直チニ實施スヘキハ勿論ニ  
候得共前年徵兵ニテ失踪中ノモノハ總テ復歸ノ上告發スヘキ儀ニ候哉 (分錄)

○陸軍省指令 四月  
一日

第二條 復歸スルト否トヲ問ハス告發スヘシ

○富山縣伺 同十七年  
六月廿四日 (指令集)

現役輜重輸卒失踪届出ル者アリ右ハ徵兵規避ノ嫌疑有ニ依リ復歸ヲ待タス直ニ檢  
事ヨリ告發スヘキ儀歟

○陸軍省指令 六月廿八日  
(電報)

現役輜重輸卒ハ召集ノ期ニ後レ十日ヲ過クルニ非ラサレハ告發スルノ限リニ在ラス

○岐阜縣伺 同十七年  
二月廿五日 (指令集)

第一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡セシ者ハ本人復歸スルト否トヲ不問其筋ヘ告發  
スヘキ等ニ候處右逃亡トハ有心規避シテ其踪跡ヲ稽購スル確證アルモノニ限リ  
タル儀ト心得可然哉

第二條 前條若シ然ラハ規避ノ確證ナク居所分明ナラサルモノ、如キハ失踪者ニ  
付前條ノ如ク告發スヘキモノニハ無之候哉

但檢査時日ノ指定ヲ受ケタル後失踪シタルモノハ本令第四十三條中正當ノ故  
ナリ其場所ニ參會セサルモノニ云々トアルニ該當スルヲ以テ本人ノ復歸スルト  
否トヲ問ハス告發候儀ト心得可然哉

第三條 前條本文ノ失踪者ト雖モ若シ逃亡ノ者同様告發スヘキモノトセバ本令第  
二十二條第五項及第九項ノ失踪ノ内ヘ逃亡者ヲモ含有スルモノニ有之候哉

○陸軍省指令 五月  
十日



第一條 確證アル者ニ限ラス當該官吏ニ於テ其犯罪ナリト認知シタル時ハ發告ス可

シ

第二條 前條ノ指令ニ依リ了解ス可シ

但書ハ伺之通

第三條 逃亡ノ者ヲ含有セス

○三重縣同十七年八月十日（指令集）

第十五條 令第四十二條常備現役年期ノ計算等ハ總テ入營年ノ四月二十日ヨリ起

算ストアリ右入營年ト指シタルハ本人現役適齡ノ初年ヨリ起算スル儀ニ候哉果

シテ然ラハ第十九條ノ生徒ニシテ六ヶ年間徵集猶豫ヲ與ヘラレタル者ハ現役一

ヶ年ニシテ後備兵ヘ編入可相成儀ニ候哉

第十六條 第二十條第五項官立府縣立醫學校ノ卒業證書ヲ所持シ醫術開業ノモノ

トアリ右證書ヲ所持セサルモ内務省ノ試験ヲ經テ同省ヨリ開業免狀ヲ得ルモノ

ハ本條ニ準スル義ト心得可然哉

○陸軍省指令五月十日

第十五條 入營年トハ本人入營セシ年ヲ指稱ス又第十九條ノ生徒六ヶ年間猶豫ノ後

ハ現役三ヶ年ノ後豫備役ニ服スヘキモノトス

第十六條 證書ヲ所持セサルモノハ本條ニ準スルノ限ニ非ス

○德嶋縣同十七年八月二日（指令集）

第四條 徵兵令第四十一條前畧第二十五條第三十六條ノ届出ヲ怠リタルモノハ云

々トアルモ同令第十七條第十八條第十九條各項ニ相當ノモノハ其届出ヲ怠リタ

ル廉チ同令第四十三條ニ依リ處分シテ本人ハ猶豫ニ屬スヘキ儀ニ候哉

第五條 徵兵令第二十一條相當ノ者ニシテ既ニ太政官ノ裁決ヲ經タル者同令第三

十五條ノ届出ヲ怠リタルモノハ同令第四十三條ニ據リ其届出ヲ怠リタル廉チ處分

シ本人ハ徵集猶豫ニ屬スヘキ哉



第六條 舊法ニヨリ戸主ニシテ除族ノ刑ニ處セラレ尙戸主トナルモノハ通常分家ノ戸主トハ異リ法律上異動ヲ生セシモノナレハ該戸主及其嗣子承祖ノ孫ハ父ノ年齢ニヨリ徵集猶豫ニ屬スヘキ哉

第八條 戸主死去シ男女子アルモ幼稚ニシテ家計保持シ難ク不得止他ノ子弟ヲ以テ家名相續セシメ戸主トナリ而シテ該幼稚者ヲ戸主ノ嗣子ト定メタルモノハ死跡相續者ト見認メ該戸主及ヒ其嗣子ハ養父ノ年齢ニヨリ徵集猶豫ニ屬スヘキ哉

○陸軍省指令九月一日

第四條 第五條 猶豫ニ屬セス

第六條 伺之通

第八條 戸主ハ猶豫ニ屬セス嗣子ハ伺之通

○愛媛縣伺同十七年八月九日 (指令集)

第二條 本令第三十五條中ノ異動届云々ハ條例第十八條異動届モ含有致居候哉果

シテ然ラハ其届出三日已外ニ出タル片ハ令第三十四條及ヒ第四十一條ニ基キ夫々處分可致儀ニ有之候哉

第六條 本令第四十條第四十一條ニ當ル入營延期及ヒ先入兵ノモノニアツテ同第三十一條ニ據リ一年志願ヲ爲スト雖モ無論條例第三百三條之限外ト相心得可然哉

○陸軍省指令九月六日

第二條 第六條 伺之通

○岡山縣伺同十七年八月十三日 (指令集)

第五項 事務條例第二百二十六條兄弟同時徵集ニ當リ共ニ合格スル者ニ於テ令第三十四條乃至第三十六條ノ届出ヲ怠ル者ハ本條ノ限リニ無之哉

○陸軍省指令九月三日

第五項 先入兵ヲ徵集シ一人ハ猶豫ス

○神奈川縣伺同十七年八月十六日 (指令集)



第六條 令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ怠リタル者ハ同令第四拾一條ニ據リ先  
入兵ニ處分スヘキモノニ候處該輩ニシテ届出ヲ爲スヘキ當時令第十七條乃至第  
二十一條ノ資格ヲ有スルモノハ同條例第四百九條ノ趣モ有之ニ付令第四十三  
條ニ據リ處罰セラレ而シテ各其本條ニ依リ無論徵集猶豫ニ屬シ候哉

○陸軍省指令 九月十  
八日

第六條 猶豫ニ屬セス

○福嶋縣 伺 同十七年  
九月五日 (指令集)

令第三十七條他ノ府縣ニ寄留スル者其地ニ於テ徵集ニ應セント欲スル者ハ八月十  
五日迄ニ本管廳ニ願出可シトアリ右日限經過スト雖モ第三十五條ノ届出ヲナス  
ニ差支ナキト認ムル場合ハ聞届不苦候哉

○陸軍省指令 九月二十五  
日(電報)

令三十七條ニ當ル者八月十五日ヲ過キ出願スル者ハ願意聞届難キ儀ト心得ヘシ

○德嶋縣 同十七年  
九月二日 (指令集)

第六條 失踪ト逃亡トハ其實自ラ異ナルモノニシテ失踪セシモノハ検査時限ニ際  
シ猶検査指定ノ日時ニ其場所ヘ參會セサル等ノ廉ハ本令第四十三條ニ照シ處罰  
スルモ本令第四十四條ニハ相當セス然ルニ失踪ノ後次年ニ至リ其失踪セシ所爲  
全ク徵令規避ニ出テタルノ確証ヲ得ハ直ニ逃亡者トナシ更ニ本令第四十四條ニ  
照シ無論其罪ヲ告發シ可然哉

○陸軍省指令 十月  
十一日

第六條 伺之通

○愛媛縣 伺 同十七年  
八月三十日 (指令集)

第一條 本令第十七條第三項乃至第五項ニ當ルモノニテ若シ同令第三十五條ノ各  
届届出ヲ怠ルモノアルハ同第四十三條ニ據リ相當處分スヘキモノナレハ同第  
四十一條ニ據ラスシテ其資格ノアル處ニ組込ニ徵集猶豫可相成儀ニ候哉

○徵兵令 雜則



第二條 本令第三十五條中若シ届出ノ後翌年四月十日迄ニ異動ヲ生シタルハ其事由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍戸長ヘ届出ヘシト有之依テ考ルニ右ハ各自届出後徵集猶豫ノ資格ヲ失ヒ更ニ徵集ニ應スヘキ異動ヲ生シタルハ示サレタルモノニテ營ヘハ徵集猶豫ニ屬スルモノニテ徵集ニ關係ナキ異動或ハ徵集ニ可應モノニテ轉籍等ノ異動届出若シ三日以外ニ係ルト雖モ右ハ全ク徵集規避ヨリ出タルモノニ無之候ハ、同第四十一條及ヒ第四十三條ノ限外ト相心得可然哉

○陸軍省指令 十月十日

第一條 令第四十一條ニ據ルヘキモノトス

第二條 令第四十一條及ヒ第四十三條ニ據リ處分スヘキモノトス

○大分縣伺 同 十七年 八月二十九日 (指令集)

第一條 年齢僅カニ二三歳ニシテ父母ト共ニ失踪或ハ徵兵令制定 明治六年一月十日 以前失踪シタル者等ハ徵兵規避ノ念慮ハ無之者ニ付正常ノ事故ヲシテ検査所ヘ參會セサル

モノヲ以テ論シ本令第四十一條及ヒ第四十三條ニ據リ處分シ可然哉

○陸軍省指令 十月十日

第一條 伺之通

○静岡縣伺 同 十七年 九月十一日 (指令集)

第一條 明治十六年十二月迄ニ年齢滿二十歳トナリタル者ニテ舊徵兵令第二十八條第二十九條第三十條相當ノ者ト雖モ同令第六十一條ノ届出ヲ怠リタル者本年九月十五日迄ニ其届出ヲ爲サ、ルトキハ徵兵事務條例第百五十九條ニ依リ處分シ而シテ徵兵令第四十一條ヲ適用スヘキ儀ニ候哉

第二條 前條第二十八條第二十九條第三十條相當ノ者ニシテ本年九月十五日迄ニ届出ヲ爲スモ尙徵兵令第四十一條ニヨリ現役ニ徵集スヘキ儀ニ候哉

○陸軍省指令 十月十八日

第一條 伺之通

○徵兵令 雜則



第二條 徵集スヘカラサルモノトス

○福嶋縣伺 同十七年九月六日 (指令案)

第一條 寄留地ニ於テ徵集ニ應セント欲スル者ノ取扱手續ハ本令第三十七條ニ明示サレタルノミニテ事務條例中別ニ該件ニ關スル條項無之右ハ寄留地戸長へ各自届テ差出スノミニテ該届書差出前寄留地並ニ本籍戸長へ願出若クハ届出及ヒ本籍府縣廳ヨリ寄留地府縣廳へ通牒等ヲ要セサル儀ニ候哉

第二條 兄弟同時徵集ニ當ル者ニシテ他府縣ニ寄留シ該地ニ於テ檢査ヲ受ケント欲スル者ハ各自届テナス年ノ八月十五日前其旨ヲ寄留地へ願出本籍戸長へ届出ヘシ云々ト有之候處右ハ寄留地戸長へ願出本籍戸長へ届出ノミニテ本令第三十七條ノ手續ヲ爲スニ及ハサル儀ニ候哉

○陸軍省指令 十月十一日

第一條 該届書差出寄留地戸長へハ願届ニ及ハス令第三十七條ノ願書ハ本籍戸長郡

區長ヲ經由スヘキモノニテ又本管廳ニ於テ許可セシ上ハ寄留地府縣廳ニ通牒スヘキモノトス

第二條 伺之通

○山口縣伺 同十七年八月三十日 (指令案)

第三條 令第三十七條他府縣ニ寄留スルモノ其地ニ於テ徵集ニ應セント欲スル片ハ其地ニ居住スル戸主証人ト可相成ノ處右寄留ハ全戸單身ノ區別ナキヤ

○陸軍省指令 十月十四日

伺之通

○青森縣伺 同十七年九月八日 (指令案)

第一條 徵兵令第三十七條ニヨリ寄留地ニ於テ徵集ヲ許可セシキハ其縣ヨリ寄留地府縣へ通知スルハ勿論尙原籍戸長ハ戸籍帳ニヨリ人別表調製ノ上寄留地戸長へ廻送可致儀ト心得可然哉



○陸軍省指令<sup>十月二日</sup>

第一條 密留地戸長ニ於テ調製スルモノトス

○大坂府伺<sup>同十七年九月十八日</sup> (電報)(指令集)

徵兵事務條例第十七條ニ戸主ノ失踪モ含有スル哉若シ同條親族ニシテ届出ヲ怠タルモ本令第四十三條ヲ以テ處分スルノ限リニアラサル哉

○陸軍省指令<sup>十一月廿二日</sup> 電報

伺之通

○茨城縣伺<sup>同十七年十月六日</sup> (指令集)

第一條 五十歳未満ノ戸主ノ嗣子<sup>元治元年一月生</sup> 舊令第二十九條第一項ニ據リ免役名稱ヲ得ヘキニ同令第六十條六十一條ノ届出ヲ怠リ十六年七月二十三日戸主トナリ本年九月十五日以後ニ迄ルモ仍ホ届出サルモノハ無論新條例第五百十九條ニ照シ新令第四十三條ニ據リ處罰ノ後同令第四十一條ノ手續ヲ爲スヘキ哉

○陸軍省指令<sup>十一月八日</sup> (電報)

第一條 伺之通

○山口縣伺<sup>同十七年十一月廿七日</sup> (指令集)

第二條 令第三十五條後段若シ届出ノ後翌年四月十日迄ニ異動ヲ生セシキハ三日以内ニ可届出云々明文有之候處該異動ハ戸籍上ニ關スル事件ニシテ犯罪處刑之儀ハ右届出ノ限外ト可相心得哉

第四條 令第三十六條ニ當リ名稱罷メノ者九月十六日以後翌年四月十日迄ニ異動生セシ時ノ届出方正文無之候得共均シク徵集ニ應スヘキ性質ヲ帶ルモノニ付令第三十五條ヲ遵奉スヘキモノトシ若シ之カ届出ヲ怠ルモノハ令第四十三條ニヨリ處分セラレ、儀ト可相心得哉

○陸軍省指令<sup>十二月二十四日</sup>

第二條 違警罪ヲ除クノ外届出ツヘキモノトス

○徵兵令 雜則



第四條 徵兵令第四十一條及第四十三條ヲ適用スヘキモノトス

○嶋根縣伺同十七年十二月八日 (指令集)

第二條 徵兵令第三十七條ニ據リ寄留地ニ於テ徵集ニ應シ度旨出願セシモノ不得  
止事故ヲ生シ檢査前本籍ヘ復歸シ又ハ檢査後復籍或ハ他ヘ寄留替等之者ハ徵兵  
事務條例第十八條及ヒ同例第二十九條ニ準シ取扱可然哉

但本文檢査前寄留替ノモノハ其替ヘタル地ニ於テ八月十五日前徵兵令第三十

七條ノ手續ヲ爲シ能ハサルモノニ付無論本籍ニ於テ徵集候儀ニ可有之哉

○陸軍省指令十八年一月十五日

第二條 復籍又ハ寄留替ヲ爲スモ最初許可ノ地ニ於テ徵集スヘシ

但書本文指令ニ據リ了解スヘシ

○滋賀縣伺同十七年十二月九日 (電報) (指令集)

令三十六條但書相當之者他ヘ寄留シ且赤貧ニシテ旅費ニ差支歸國シ難者ハ令三十

七條定時日限外ト雖モ寄留地方應願意ヲ許可シ可然哉

○陸軍省指令十八年一月五日 (電報)

許可スヘカラサル儀ト心得ヘシ

○宮城縣伺同十七年十一月十七日 (電報) (指令集)

舊令第六十七條ノ趣意ハ徵集者ニ限り同令第二十八條第二十九條第三十條相當者  
ニハ適用セサル儀ニ可有之哉

○陸軍省指令十一月二十一日 (電報)

伺之通但シ届出ヲ怠リタル者ニテ本年九月十六日後届出ル時ハ新令四十一條四十三  
條ニ據ルヘキモノト心得ヘシ

○埼玉縣伺同十七年十一月十七日 (指令集)

明治十七年ノ徵兵ニシテ當時五十歳以上ノ者ノ養嗣子ニテ免役ニ属シ候處同年十  
月廿四日離縁復籍シ免役ノ名稱ヲ止メタルニ依リ例規ノ通三日以内ニ可届出ノ處



遲延同月廿九日ニ至リ其届出ヲ爲シタルモノアリ右ハ御省告第二號御發布以前ノ儀ニ付令第四十一條同第四十三條ニ照シ處分スルノ限ニ無之哉

○陸軍省指令十一月廿二日

伺之通

○兵庫縣伺同十七年十二月廿四日 (指令集)

令第四十一條ニ當ル先入兵陸海軍ノ生徒トナル事ヲ得ルヤ

○陸軍省指令同十八年一月二日 (電報)

伺之通

○山口縣伺同十七年十二月廿三日 (指令集)

明治十六年十二月マテ年齡二十歳トナリ平時免役又ハ國民軍ノ外免役ノ名稱ヲ有スルモノニシテ適齡ノ届出ヲ怠リシ者當備年期七ヶ年ヲ經過セシモノモ令ム 本年九月十六日以後届出ル今尙其實格ヲ有スハ令第四十三條ニ依リ處分セラレヘキハ言ヲ竣タサル議ニ候得共先入兵

トシテ徵集スルノ限リニハ無之義ト相心得可然哉(第47項)

○陸軍省指令十八年二月三日

第四項 先入兵トシ徵集スヘキモノトス

○三重縣伺同十七年十二月廿七日 (指令集)

本令第三十五條ニ毎年一月ヨリ十二月マテニ滿二十歳ト爲ル者ハ其年九月一日ヨリ同月十五日迄ニ戶主ヨリ本籍ノ戶長ニ届出ヘシ若シ届出後翌年四月十日迄ニ異動ヲ生シタルキハ其事由ヲ詳記シ三日以内ニ本籍ノ戶長ニ届出ヘシトアリ右異動トハ甲家ノ子弟ニシテ乙家ノ養子トナリ或ハ父兄等ノ進退ニヨリテ身分ニ異動ヲ生スル等假令徵否ニ關セサル身上異動ト雖モ包含スル議ト存候就テハ其徵否ニ關セサル異動届出ヲ怠リ他日發覺スルトキハ同令第四十一條及ヒ第四十三條ニ據リ處分スル義ト心得可然哉

○陸軍省指令十八年三月四日



伺之通

○熊本鎮臺伺同十七年十一月五日（指令集）

本年八月四日先入兵取扱之儀ニ付東京鎮臺略入營之上同條例第八十五條但書ニ當ル事故ヲ生シ一家ノ生計ヲ營ム能ハサル者ハ歸休等ノ詮議ニ及ホサ、ル儀ト心得可然哉ノ伺へ伺之通ト御指令有之是ヨリ先本年二月十六日鳴根縣前舊令第三十二條其他翌年回ノ者處分方等總テ舊令ニ據リ取扱ヒ前陳新令各條ニハ關係無之歟ノ伺へ三月十三日付伺之通ト御指令相見へ候然ルニ東京鎮臺へ御指令之趣ハ新令ヲ以テ徵集セラレタル先入兵ノ處分ニ適應スル儀ニテ舊令ヲ以テ徵集セラレシ者即チ十五年以後ノ現役兵（本年入營ノ現役兵モ含蓄ス）來ル二十年四月二十日滿期迄ハ猶舊事務條例第一百八條第三項及第四百四十四條後段等ニ依リ取扱ヒ可然哉又鳴根縣伺ハ東京鎮臺伺前數月ニ係ルヲ以テ自ラ消滅シ新舊令ニ拘ハラズ爾後總テ詮議ニ及ホササル儀ニ候哉

○陸軍省指令十一月二十日（電報）

事務條例發布後出願ノモノハ詮議ニ及ハサル儀ト心得へシ

○靜岡縣伺同十七年十一月十二日（指令集）

第三條 明治十六年十二月迄ニ二十歳トナル者ニシテ數年以前失踪ノ故ヲ以テ前年送先入兵名簿中ノ者本年四月十一日以後復歸セシモノハ徵集規避ノ情ナキ者ト見認ムルモ令第四十一條ニ依リ先入兵之處分ヲナスヘキ義ニ候哉

○陸軍省指令十八年一月二十六日

第三條 規避ノ有無ニ拘ハラズ十七年徵兵檢査之際故ナク參會セサルモノハ令第四十三條ニ據リ處分スヘキモノニ付告發ノ手續ヲナスヘシ



第七章 徵兵令改正ニ付種々ノ取扱規則

○東京鎮臺伺 明治十七年 一月二十一日 (指令集)

客年十二月達乙第百三十四號(此達ハ甲第四十四號達ト同)御達中ニ示サレタル條項ノ外ハ凡テ十六年十二月廿八日徵兵令改正施行期日後ハ實施相成候儀ニ候哉果シテ然ル時ハ第十條十七歲以上ニテ現役志願之者ハ檢査之上常備以內之籤ヲ抽カシメ候儀ト相心得可然候哉

○陸軍省指令 一月二十六日

伺之通

但シ現役以內ノ籤ヲ抽カシムヘシ

○徳嶋縣伺 同 十七年 一月廿八日 (電報) (指令集)

常備兵在營中家計ニ止ムヲ得サル事故ヲ生シ歸休又ハ免役ヲ出願ノ者取扱方徵兵令改正後モ舊徵兵事務條例第百二十一條ノ手續ニ準シ取扱可然哉

○陸軍省指令 二月四日 (電報)

去月廿八日電報常備兵在營中家事故障ニ由リ歸休又ハ免役出願ノ者取扱伺之儀伺之通

○山梨縣伺 同 十七年 二月八日 (指令集)

客年御省達甲第四十四號ヲ以改正徵兵令第三十六條等ハ明治十八年徵集スヘキ者ヨリ實施候儀ト可心得旨御達相成候ニ付テハ從前舊令ニ據リ免役ニ屬シ客年四月十日迄ニ常備年期ノ第三年ヲ經過セシ者ハ既ニ現役ニ服スヘキ義務ヲ免シタルヲ以テ假令本年一月以後當初免役ニ屬セシ名稱ヲ失フト雖モ之ヲ新令ニ照シテ取扱フヘキ限ニ無之哉將タ右期限ハ溯テ新令ヲ適用スヘキモノトシ即今常備年期間安政三辰年出生ノモトニ係ル者本年一月以後安政三辰年出生ハ其免役トナリタル名稱ヲ失ヒタルモノハ總テ明年ノ徵集ニ應セシムヘキ儀ニ候哉

○陸軍省指令 四月一日

○徵兵令改正ニ付種々ノ取扱方 指令類



第一項 前段伺之通

○三重縣伺 同十七年 二月廿日 (電報) (指令集)

舊令ニ依リ免役及ヒ徵集猶豫ノ者常備年期ノ第三年經過ノ後異動アルモ新令三十  
二條但書ニ該ラサル儀カ

○陸軍省指令 二月二十二日 (電報)

本月二十日電報舊令ニ依リ免役及ヒ徵集猶豫ノ者常備年期第三年經過ノ後異動アル  
モ云々伺ノ儀伺ノ通

○岐阜縣伺 同十七年 四月九日 (電報) (指令集)

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニアル者郷里ニ在リテ賭博ヲ犯シタルハ本年第二十  
七號達ニ據リ憲兵部ナキ地方ハ陸軍法術ニ送附スル儀ト心得可然哉

○陸軍省指令 四月十五日 (電報)

歸休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者郷里ニ在ル賭博犯ハ軍術ニ於テ處分スル限ニ在

ラサル儀ト心得ヘシ

○愛媛縣伺 同十七年 四月十日 (指令集)

販休兵及ヒ豫備後備ノ軍籍ニ在ル者郷里ニ於テ賭博ヲ爲シタル者ハ本年第廿七號  
公達ニ基キ其筋ヘ交付可致哉將タ本年第壹號公布ニ依リ地方ニ於テ處分可致儀ト  
心得可然哉若シ地方處分ニ付セラル儀ニ候得者懲罰限内復習其他召募ノ期ニ際ス  
ルモ右限内ハ之ニ應セシメサル儀ト心得可然哉

○陸軍省指令 四月二十四日 (電報)

歸休兵以下召集中ノ外ハ地方ニ於テ處分シ其罰期中ハ召集點呼セサル儀ト心得ヘシ















第五類 徵兵事務條例

第一章 徵兵事務官及其職掌

○陸軍省達甲第四十二號府縣(沖繩札幌)同十七年 達同十七年

徵兵事務條例第十壹條ノ地方醫員ノ儀ハ明治九年一月內務省乙第五號(醫師開業試) 達ニヨリ醫術開業免狀授與ノ者ヲ以テ之ニ充ツヘシ此旨相達候事

但九年內務省乙第五號達(前ニ)ノ免狀授與ノ者不足スル府縣ニ在テハ當分本年同省乙第四號(醫師開業免狀授與ノ) 達ニ據リ免狀授與ノ者ノ中適任ノ者ヲ撰ヒ交用スルモ不苦候事

○東京鎮臺伺明治十七年八月一日 (指令案)

徵兵事務條例第九條ニ據ルルハ徵兵ノ事務ヲ整理スルニハ府縣兵事課長ニ限リ候ト雖モ實際事務ノ都合ニ因リ兵事課員ト雖モ其事務ニ關スルヲ得候儀ト心得可然哉果ノ然ルルハ府縣駐在官ニ在テ事務ノ都合ニ因リテハ駐在書記ヲ其補助ヲ爲

サシメ可然哉

但府縣駐在官及兵事課長ノ徵兵檢査所ヲ巡行スル時ハ郡區駐在官及郡區長ハ事務ニ關セサル如ク被相伺候得共是又事務ノ都合ニ因リ其所管ノ内へ設置シタル檢査場ニ在テハ出頭補助ヲナシ且郡區書記ト雖モ時宜ニ因テ出頭補助ヲ爲ス等後備軍司令官及府知事縣令協議ノ上ハ便宜ニ任セ可然哉

○陸軍省指令八月十六日

伺之通

但書郡區駐在官郡區長檢査所出頭ノ儀ハ徵兵事務條例第四十四條揭示ノ通又郡區書記出頭ノ儀ハ地方ノ便宜ニ任シ後備軍司令官關涉スルノ限ニアラス

○東京鎮臺伺同十七年八月四日 (指令案)

第一 徵兵事務條例第七條每年新兵徵集ノ際海軍將校ヲシテ後備軍司令官ノ事務ニ參セシムト有之右ハ抽籤ノ節ハ元ヨリ檢査ノ時ト雖モ出頭スヘキ儀ニ有之候

○徵兵事務條例 徵兵事務官及其職掌



哉且同時海軍醫官ハ派出巡行セサル儀ニ有之候哉

但免否猶豫ノ裁決ニ在テハ無論後備軍司令官ノ特權ト心得可然候哉

第二 前條海軍兵ノ儀ハ來ル十八年以後年々徵募セラレ候儀ト心得可然候哉  
但其年ニ因リ別段徵募ノ儀御達相成候得ハ右御達無之年ニ在テハ第五十一條ノ  
取扱ハ相省キ候モ不苦候哉

第三 前條ニ就テハ陸軍ニ於テ先入兵及ヒ入營延期トナリシ者其年海軍兵ニ適當  
スル時ハ抽籤ノ法ヲ用ヒスシテ海軍現役ニ服セシメ可然候哉

第四 該條例第二百二十二條志願者ハ海軍兵ニ在テ適當ト定メタル者ハ同軍兵ニ採  
用候テ可然候哉

○陸軍省指令 八月二  
十日

第一項 検査ノ時ハ出頭セス其他伺之通

第二項 但書伺之通

第三項 陸軍ニ於テ先入兵及ヒ入營延期トナリシモノハ海軍現役ニ服セシムルノ限

ニ非ス

第四項 海軍兵志願ノ者ハ伺之通

○大坂府伺 同十七年  
八月六日 (指令案)

第一項 條例第十一條第二項ノ筆生及ヒ地方醫員ノ人員ニハ別段制限無之哉將醫  
員ハ地方徵兵醫員職務概則第一條ノ旨ニ據リ内務省免許醫(從來地方吸リノ免許醫ニ  
シテ本年ニ至リ一校内務  
省ノ免狀ヲ得タ  
ルモノヲ除ク)ニ限ル儀ト相心得可然候哉

○陸軍省指令 八月二  
十三日

第一項 前段徵兵事務取扱手續第六項揭示之通後段伺之通

○愛知縣伺 同十七年  
八月八日 (指令案)

第一條 徵兵事務官中縣令及兵事課長郡區長ニ於テ病氣又ハ一時止ムヲ得サル事  
故出來候片ハ書記官及ヒ兵事課員郡區書記中高等ノ者ヲ以テ代理セシムルモ不

○徵兵事務條例

徵兵事務官及其職掌

三百六十五



苦哉

但徵兵署及ヒ検査所巡行ニ際シ事務繁忙ナルハ兵事課員若干名ヲシテ事務補助セシムルハ勿論ノ儀ニ候哉

○陸軍省指令九月二日

第一條 伺之通

第二章 徵兵検査所及ヒ徵兵署 關

第三章 各自届出

○文部省第壹號府達明治十八年 縣達一月十二日

府縣ニ於テ徵兵事務條例第拾六條但書ニ據リ生徒ニ在學證明書ヲ交付スルトキハ左ノ書式ニ據ラシムヘシ

右旨相達候事

書式用紙公用罫紙紙質適宜

證明書

族 籍

姓

名

年

齡

右ハ本校何學科第何級修業中ノ生徒ニシテ既ニ幾箇年ノ課程ヲ卒リタル者ナリ依テ之ヲ證明ス

年 月 日

何府立何學校長姓名印

○德嶋縣伺明治十八年八月二日 (指令集)

第十四條 同條例第十七條各自届出ヲ爲スニ當リ戸主及ヒ本人共失踪ニテ遺族且

親戚等モ無之モノハ近隣又ハ其事情熟知ノ者ヨリ爲届出可然哉

第十五條 同條例第十八條前略他ノ府縣へ轉籍スルモノハ三日以内新舊住地ノ戸長へ届出可シトアルハ舊住地ハ發足前新住地ハ到着ノ後三日以内ニ届出ヘク儀ト心得可然哉

○徵兵事務條例 各自届出



○陸軍省指令 九月一日

第十四條 第十五條 伺之通

○東京鎮臺伺 同 十七年 八月廿一日 (指令集)

第一條 徵兵事務條例第十六條各自届書へ添フヘキ刑名宣告書寫ハ從來之經驗ニ

ヨリ實際取纏メ難キ場合モ有之管下各府縣ニ於テモ頗ル困却致候趣モ有之候就  
テハ檢事ヨリ戸長へ通知スル所之裁判已決表中宣告之全文ハ無之モ刑名ハ確然

相分リ候儀ニ付不得止場合ニ在テハ右已決書寫ヲ以宣告寫ニ換用候而不苦哉

第二條 同條第三項檢察官ノ証明書云々ト有之候處賭博犯ニ在テハ無論警察官之  
証明書ヲ要シ候儀ト相心得可然哉

○陸軍省指令 八月廿三日

書面兩條共伺之通

○愛知縣伺 同 十七年 八月廿三日 (指令集)

第二條 徵兵事務條例第十六條第三項中証明書及第百三十四條ノ通牒方ノ儀ハ學

校長若クハ所屬長ニ於テ可取計儀ハ明瞭候處右ハ校長ヲ置カス又ハ教員一名ノ

外無之學校ニシテ其教員ニ係ル事件ノ如キハ本人ニテ之ヲ取扱フ儀ニ候哉將タ

其學校ヲ管理スル處ノ學務委員ニ於テ取計可然哉

○陸軍省指令 九月四日

第二條 學務委員ニ於テ取扱フヘシ

第四章 下調

○陸軍省達甲第三十九號 府縣(沖繩振室札 明治十七年 愧ノ三郡ヲ除ク) 達 九月六日

徵兵事務條例第二十三條及第三十條 (全書五十二 三丁凡參觀)ニ據リ郡區長ハ壯丁名簿及ヒ壯丁異

動名簿ヲ製シ各自届書人別表其他書類ト共ニ郡區駐在官ニ送付可致儀ニ候處當分ノ

内壯丁異動名簿ノミ駐在官ニ送致シ該官ニ於テハ其名簿ノ卷末ニ署名押印シ郡區長

ニ返付スヘキ儀ト可心得此旨相達候事

○徵兵事務條例 下調



○德嶋縣伺 明治十七年七月三十日 (指令集)

徵兵下調査手續ハ徵兵事務條例第四章各條ノ如シト雖モ同條例第三十五條ニ壯丁諸名簿及各自屆書人別表其他ノ書類ヲ調査シ尙戶籍帳ニ照較シ遺漏又ハ差違ナキヤ否ヲ調査スル云々トアルニ據レハ毎年郡區長ヨリ府縣廳ヘ壯丁名簿差出スハ條例第二十五條ノ通十月廿五日ニシテ身体檢査ハ同條例第四十二條ノ如ク十一月十日ヨリ始ムル成規ナレハ最早郡區長ヨリ差出ス日限ト檢査期日トハ僅々十五日以内ニテ本縣ノ如キ管内延長ニシテ最モ山間僻邑多ク爲メニ各町村戶籍帳照較ニ差支不勘候ニ付毎年下調査期日ヲ前一ヶ月豫上ケ調査致度候ニ付此段相伺候也但本文御許可ノ上ハ徵集及ヒ猶豫ニ關スル區分ハ成規ノ通九月十五日ヲ以テ區別シ調査可致見込ニ有之候

○陸軍省指令 八月十六日

伺之趣聞屆候條所管鎮臺ヘ協議ノ上可取扱事

○滋賀縣伺 同十七年八月九日 (指令集)

第一條 國民兵名簿ノ儀ハ壯丁名簿調査ノ原簿タルヲ以テ年齡二十年十一ヶ月トナル迄ハ身上ノ異動アル毎ニ訂正ヲ加フヘキ儀ニ有之候處徵兵事務條例第二十二條及第廿八條ニ各自屆出後ノ異動屆書取扱手續ヲ示サレタル迄ニテ本令第三十四條ノ届出ヲ爲シタル後身上異動アルキ本人ヨリ届出ツルノ成文無之右ハ府縣廳ニ於テ適宜期限ヲ定メ候テ可然哉  
第二條 譬ヘハ明治十六年中滿十七歳トナルモノニシテ舊徵兵令第六十條ノ届出ヲ怠タル者明治十七年九月十五日迄ニ届出サルキハ徵兵事務條例第一百五十九條ヲ適用スヘキ儀ニ候哉  
第三條 譬ヘハ明治十七年徵兵適齡者ニシテ新令第三十五條ニ據リ本年九月十五日迄ニ届出ヲ爲シタル者ノ内本年九月十六日以後舊令第六十條ノ届出ヲ怠タル者アルヲ發露スルキハ前條同様相心得可然哉



○徵兵事務條例 下調

三百七十二

第四條 徵兵事務條例第三十條ニ據リ郡區長ニ於テ調製スル國民兵名簿ノ用紙ハ府縣廳ヨリ交付可致儀ニ候哉

○陸軍省指令 八月二十三日

書面四ヶ條共伺之通

○三重縣伺 同十七年九月四日 (指令集)

第二條 同例第廿三條前年送り先入兵ハ年齡滿三十三歳ヲ經過スルモ異動先入兵名簿ニ登記スヘキ哉果シテ然ラハ年齡何歳ニ至ルヲ以テ除名ノ期限ト可致哉

第三條 同例第廿八條但書ニ第三十四條各自届出後身上ノ異動届ハ三日以内云々トアルハ檢査時限内外ノ區別無之哉且其年國民兵籍ニ入ルモノハ郡長ニ於テ該名簿ヲ編製ス同例第三十一條ニ據リ十一月十日迄ニ縣廳ヘ届出ル成規ナリ然ルニ同例第廿八條ノ異動届ハ未タ名簿差出前已ニ縣廳ヘ送達ノ順序ニ相見候得共届書ノミ差出スモ名簿無之上ハ加除訂正難相成就テハ名簿整頓迄ニ届出ル異動

届ハ郡役所ニ於テ訂正ヲ加ヘ名簿ト共ニ縣廳ヘ爲差出候テ御差支無之哉尙該異動ハ本令第三十五條ノ如ク徵集ニ關係ヲ及ホサ、ルモノニ付當縣ニ於テハ從來各自異動毎ニ所屬戶長ヘ届出戶長ハ之ヲ取纏メ翌月五日限り郡役所ヘ差出シ郡長ハ之ヲ一郡ニ取束テ同月十日迄ニ當廳ヘ差出來候處自今モ從來取扱ノ順序ニヨリ爲取扱候モ御差支ハ無之哉

○陸軍省指令 十一月十日

第二條 年齡四十歳迄名簿ニ据置クモノトス

第三條 伺之通

但國民兵籍ニ編入シタル年之檢査時限内ニ係ル異動ハ條例第二十八條但書揭示之通

○鹿兒嶋縣伺 同十七年九月六日 (指令集)

第一項 徵兵令第三十五條但書ニ當ル者ノ取扱ハ徵兵事務條例第二十條但書ヲ以

○徵兵事務條例 下調

三百七十三